

(案)

東京港港湾計画資料 (その 1)

— 一部変更 —

平成 2 1 年 5 月

東京港港湾管理者

東京都

目 次

1	変更理由	1
2	港湾の能力に関する資料	2
2-1	取扱貨物量の設定	2
2-2	入港船舶隻数の推計	1 2
3	施設計画に関する資料	1 4
3-1	公共埠頭計画	1 4
3-2	水域施設計画	2 8
3-3	臨港交通施設計画	3 6
4	大規模地震対策施設計画に関する資料	3 7
5	国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として 機能するために必要な施設に関する資料	3 9
6	効率的な運営を特に促進する区域に関する資料	4 0
7	土地造成及び土地利用計画に関する資料	4 1
8	その他の資料	4 3
8-1	東京都港湾審議会名簿	4 3

1 変更理由

近年の外貿コンテナ貨物需要の増大を踏まえて、目標年次における港湾の能力を変更する。これにあわせて、外貿コンテナ船の更なる大型化等に対応するため、南部地区、中部地区及び中央防波堤地区の公共埠頭計画、水域施設計画、臨港交通施設計画等を変更する。

2 港湾の能力に関する資料

2-1 取扱貨物量の設定

(1) 取扱貨物量の設定の方針

目標年次（平成 20 年代後半）における取扱貨物量は、東京港の取扱貨物量の推移などを基に、以下のフローに従い設定した。

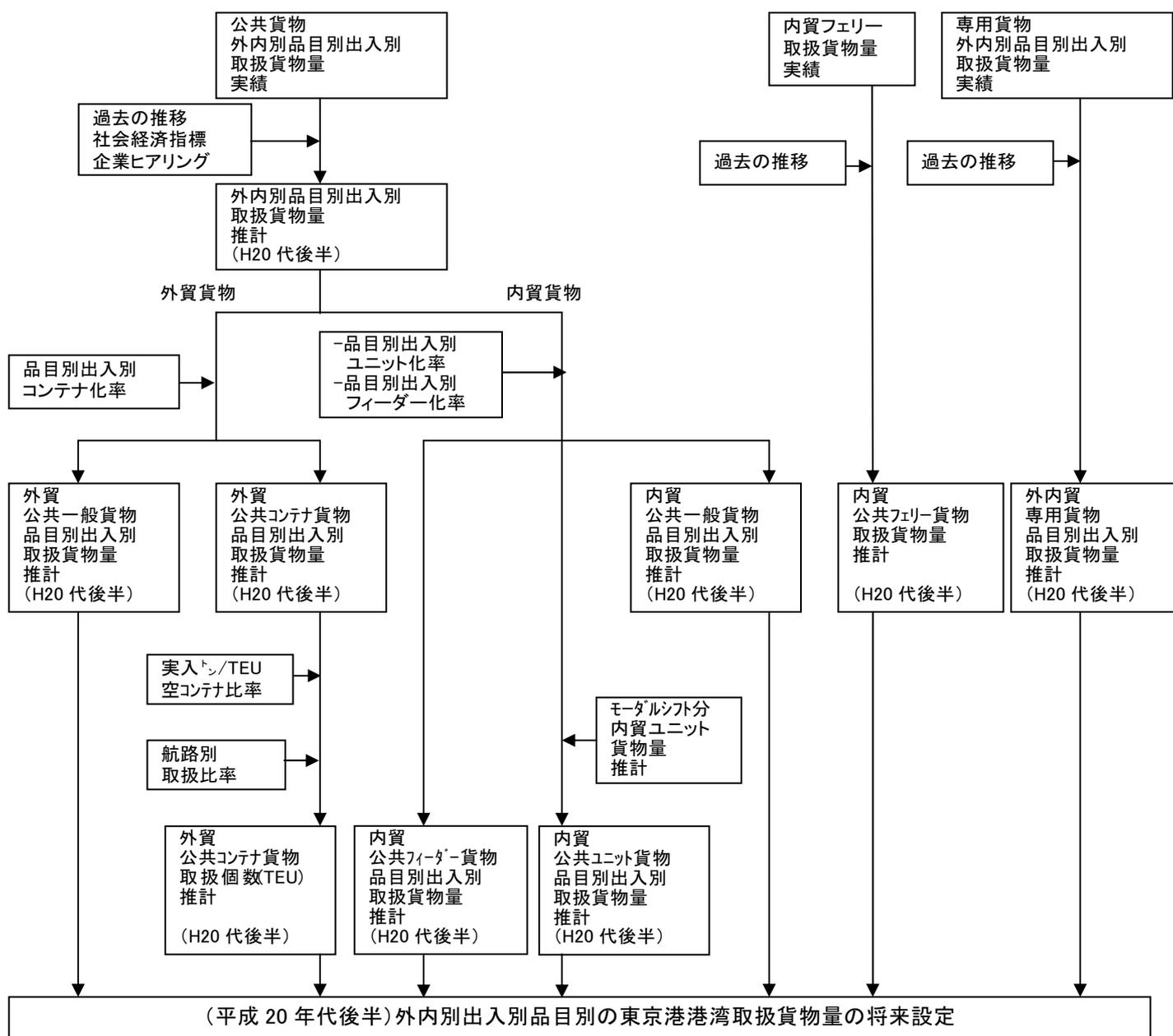


図 2-1 取扱貨物量の設定フロー

※内貨ユニット貨物量：RORO 船、コンテナ船、自動車専用船で取り扱われる貨物（外貨コンテナ埠頭で取り扱われるコンテナ貨物＝内貨フィーダー貨物を除く）

※内貨フィーダー貨物量：外貨コンテナ埠頭（大井コンテナ他）で取り扱われる内貨貨物

(2) 外貨貨物の取扱量の設定

① 外貿公共貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿公共貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表2-1 外貿公共貨物取扱量の設定

品目		出入	H18 取扱量	設定値 H20代後半	概要	設定の考え方	詳細
農水産品	米穀類	輸出	44	31	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	821	1,048	過去5カ年の平均	H18をピークに減少傾向に転じており、過去5カ年の平均とする	
		計	866	1,079			
	野菜・果物	輸出	95	87	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	1,547	2,671	時系列直線回帰	増加傾向で推移しており、時系列直線回帰とする	
		計	1,642	2,758			
	水産品	輸出	391	461	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	1,134	1,134	H18の貨物量を維持	H14をピークに減少傾向で推移しているため、現状維持とする	
		計	1,525	1,595			
	その他	輸出	221	234	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
輸入		1,465	2,317	時系列直線回帰	増加傾向で推移しており、時系列直線回帰とする		
計		1,686	2,552				
林産品	原木	輸出	12	98	時系列累乗回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列累乗回帰とする	
		輸入	213	259	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	225	357			
	製材	輸出	69	91	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	1,209	1,374	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	1,277	1,466			
	その他	輸出	153	204	時系列累乗回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列累乗回帰とする	
		輸入	234	324	時系列累乗回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列累乗回帰とする	
		計	387	528			
	鉱産品	石炭	輸出	1	1	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
輸入			67	85	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
計			68	86			
砂・砂利		輸出	18	82	時系列累乗回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列累乗回帰とする	
		輸入	172	1,356	時系列直線回帰及び企業ヒアリングによる輸入砂	近年は増加傾向で推移しているため、時系列直線回帰とする。併せて、企業ヒアリングによる輸入砂を見込む	
		計	190	1,438			
原油		輸出	1	1	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	1	0	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	2	1			
その他		輸出	6	6	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
	輸入	60	95	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする		
	計	67	100				
金属機械	鉄鋼	輸出	92	75	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	154	99	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	246	174			
	非鉄金属・金属製品	輸出	368	368	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移していたものの、H16以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする	
		輸入	616	616	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移していたものの、H14以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする	
		計	984	984			
	輸送機械(フェリー除)	輸出	1,978	3,047	自動車部品増、その他は過去3カ年の平均	自動車部品は増加傾向で推移しているため、自動車生産台数の伸びから推計し、その他は過去3カ年の平均とする	
		輸入	809	1,243	時系列直線回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列直線回帰とする	
		計	2,787	4,290			
	その他機械	輸出	3,808	3,845	過去5カ年の最大	デジタル家電製品や製造業向け電気機械の輸出は今後も増加するものと考えられるため、過去5カ年の最大値とする	
輸入		3,360	4,810	時系列直線回帰	今後も電気機械の海外生産比率は増加する見通しであり、時系列直線回帰とする		
計		7,168	8,656				
化学工業品	石油類	輸出	28	28	H18の貨物量を維持	H17以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする	
		輸入	62	62	H18の貨物量を維持	H15以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする	
		計	90	90			
	セメント	輸出	11	11	H18の貨物量を維持	H17以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする	
		輸入	2	2	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	14	13			
	その他	輸出	2,038	3,070	時系列指数回帰	今後中国をはじめとしたアジア諸国の経済成長といった需要の増加も見込まれているため、時系列指数回帰とする	
		輸入	2,193	2,991	海外現地生産比率の将来見直し	海外現地生産比率の将来見直しより推計	
		計	4,231	6,061			
	軽工業品	紙・パルプ	輸出	713	724	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
輸入			715	715	H18の貨物量を維持	H15をピークに減少傾向で推移しているため、現状維持とする	
計			1,428	1,439			
砂糖		輸出	2	2	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	63	63	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする	
		計	65	65			
その他		輸出	741	944	時系列直線回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列直線回帰とする	
		輸入	3,059	4,698	背後国人口との相関	近年は増加傾向で推移しており、背後国人口との相関式から推計	
		計	3,800	5,642			
雑工業品		その他	輸出	2,939	3,859	時系列指数回帰	増加傾向で推移しており、時系列指数回帰とする
	輸入		5,932	8,150	背後国人口との相関	増加傾向で推移しており、背後国人口との相関式から推計	
	計		8,871	12,009			
	金属くず	輸出	594	986	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	36	44	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	620	930			
	廃棄物・土砂	輸出	2	5	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		輸入	0	0	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
		計	2	5			
	取合せ品	輸出	2,091	2,983	過去5カ年の平均	近年は減少傾向で推移しているが、企業ヒアリング等から、過去5カ年の平均とする	
輸入		3,850	4,274	過去5カ年の平均	近年は減少傾向で推移しているが、企業ヒアリング等から、過去5カ年の平均とする		
計		5,941	7,256				
その他	輸出	1,085	1,117	再利用資材増、その他はH18を維持	大きく増加傾向で推移しており、再利用資材はわが国の紙・板紙生産量及び古紙回収量の将来見直しより推計。その他は現状維持とする		
	輸入	572	572	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移していたが、H14以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする		
	計	1,657	1,689				
分類不能のもの	輸出	-	-				
	輸入	-	-				
	計	-	-				
合計	輸出	17,490	22,260				
	輸入	28,345	39,003				
	計	45,835	61,262				

1) 外貿公共コンテナ貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿公共コンテナ貨物の航路方面別取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表 2-2 外貿公共コンテナ貨物取扱量の設定

航路方面	H16取扱量		設定値		設定の考え方
	(千TEU)	(千トン)	(千TEU)	(千トン)	
主要な長距離航路計	1,461	23,027	2,090	23,014	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の推移から推計された品目別出入別外貿コンテナ化率から品目別コンテナ貨物量を推計。 ・過去の推移から推計された外貿コンテナ実入トン/TEU、空コンテナ比率を用いて外貿コンテナ出入別取扱個数(TEU)を推計。 ・過去の推移から推計された航路別取扱比率から、航路別コンテナ取扱個数(TEU)を設定。
北米西岸航路	707	10,495	834	8,993	
北米東岸航路	73	1,045	112	1,178	
欧州・地中海航路	681	11,486	1,144	12,844	
中・短距離 その他の航路計	1,898	19,945	3,079	33,912	
東南アジア航路	738	9,249	1,428	15,848	
近海航路	1,089	9,591	1,523	16,610	
豪州・NZ航路	55	834	72	812	
その他航路	15	271	56	642	
合 計	3,358	42,972	5,169	56,926	

2) 外貿公共一般貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿公共一般貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表2-3 外貿公共一般貨物取扱量の設定

品 目		出 入	H18 取扱量	設定値 H20代後半	設定の考え方
農 水 産 品	米 穀 類	輸 出	-	-	
		輸 入	110	140	
		計	110	140	
	野 菜 ・ 果 物	輸 出	-	-	
		輸 入	622	944	
		計	622	944	
	水 産 品	輸 出	-	-	
		輸 入	34	31	
		計	34	31	
	そ の 他	輸 出	-	-	
輸 入		-	-		
計		-	-		
林 産 品	原 木	輸 出	8	-	
		輸 入	183	201	
		計	190	201	
	製 材	輸 出	2	-	
		輸 入	401	425	
		計	404	425	
そ の 他	輸 出	-	-		
	輸 入	1	11		
	計	1	11		
鉱 産 品	石 炭	輸 出	-	-	
		輸 入	61	77	
		計	61	77	
	砂 ・ 砂 利	輸 出	-	-	
		輸 入	-	1,000	
		計	-	1,000	
原 油	輸 出	-	-		
	輸 入	-	-		
	計	-	-		
そ の 他	輸 出	-	-		
	輸 入	17	44		
	計	17	44		
金 属 機 械	鉄 鋼	輸 出	28	20	
		輸 入	119	66	
		計	146	86	
	非鉄金属・ 金属製品	輸 出	2	2	
		輸 入	20	20	
		計	22	22	
輸 送 機 械 (フェリ-除)	輸 出	1	-		
	輸 入	0	8		
	計	1	8		
そ の 他 機 械	輸 出	9	-		
	輸 入	6	7		
	計	15	7		
化 学 工 業 品	石 油 類	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
		計	-	-	
	セ メ ン ト	輸 出	11	7	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
	輸 入	66	62		
軽 工 業 品	紙 ・ パ ル プ	輸 出	-	-	
		輸 入	35	90	
		計	35	90	
	砂 糖	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	そ の 他	輸 出	-	-	
輸 入		222	155		
雑 工 業 品	輸 出	3	-		
	輸 入	92	71		
	計	95	71		
特 殊 品	金 属 く ず	輸 出	540	829	
		輸 入	2	13	
		計	543	841	
	廃 棄 物 ・ 廃 土 砂	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	取 合 せ 品	輸 出	6	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	236	109		
	輸 入	10	5		
分 類 不 能 の も の	輸 出	-	-		
	輸 入	-	-		
	計	-	-		
合 計	輸 出	846	967		
	輸 入	2,002	3,370		
	計	2,848	4,336		

外貿公共貨物推計値から外貿公共コンテナ貨物推計値を除外したものを外貿公共一般貨物推計値とした

② 外貿専用貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿専用貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表2-4 外貿専用貨物取扱量の設定

品 目		出 入	H18 取扱量	設定値 H20代後半	設定の考え方
農 水 産 品	米 穀 類	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	野 菜 ・ 果 物	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	水 産 品	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
林 産 品	原 木	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	製 材	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	そ の 他	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
鉱 産 品	石 炭	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	砂 ・ 砂 利	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	原 油	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
金 属 機 械	鉄 鋼	輸 出	16	23	過去3年(H16-18)平均値
		輸 入	16	23	
	非 鉄 金 属 ・ 金 属 製 品	輸 出	6	7	過去3年(H16-18)平均値
		輸 入	6	7	
	輸 送 機 械 (フエリ-除)	輸 出	-	-	
	輸 入	-	-		
そ の 他 機 械	輸 出	-	-		
輸 入	-	-			
化 学 工 業 品	石 油 類	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	セ メ ン ト	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
	輸 入	-	-		
軽 工 業 品	紙 ・ パ ル プ	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	砂 糖	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
	輸 入	-	-		
雑 工 業 品	輸 出	-	-		
輸 入	-	-			
特 殊 品	金 属 く ず	輸 出	2	2	過去3年(H16-18)平均値
		輸 入	2	2	
	廃 棄 物 ・ 土 砂	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
	取 合 せ 品	輸 出	-	-	
		輸 入	-	-	
そ の 他	輸 出	-	-		
輸 入	-	-			
分 類 不 能 の も の	輸 出	-	-		
	輸 入	-	-		
合 計	輸 出	2	2		
	輸 入	21	30		
	計	23	32		

(3) 内貿貨物の取扱量の設定

① 内貿公共貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表2-5 内貿公共貨物取扱量の設定

品目	出入	H18 取扱量	設定値 H20代後半	設定の考え方		
				概要	詳細	
農水産品	米穀類	移出	57	64	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	45	56	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	102	120		
	野菜・果物	移出	40	40	H18の貨物量を維持	H16以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	64	114	時系列直線回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列直線回帰とする
		計	104	154		
	水産品	移出	38	38	H18の貨物量を維持	H15以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	44	44	H18の貨物量を維持	H15以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		計	82	82		
	その他	移出	8	8	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする
移入		20	20	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする	
	計	29	29			
林産品	原木	移出	0	1	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	5	5	H18の貨物量を維持	近年減少傾向で推移していたもののH18は増加に転じたため、現状維持とする
		計	5	6		
	製材	移出	13	13	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	14	26	時系列累乗回帰	近年は増加傾向で推移しているため、時系列累乗回帰とする
		計	28	39		
	その他	移出	11	17	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	38	32	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	49	50		
	鉱産品	石炭	移出	1	0	過去5カ年の平均
移入			3	4	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	4	5		
砂・砂利		移出	21	537	過去5カ年の平均及び企業ヒアリング	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする。併せて、企業ヒアリングから輸入砂の移出分を見込む
		移入	2,108	1,977	過去5カ年の平均	近年は増加傾向にあるものの、長期的には大きな変動は見込めないことから、過去5カ年の平均
		計	2,130	2,514		
原油		移出	0	-	取扱なし	スポット的に取扱があるのみであるため、取扱量はなしとする
		移入	0	-	取扱なし	スポット的に取扱があるのみであるため、取扱量はなしとする
		計	0	-		
その他		移出	2	13	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
	移入	35	88	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする	
	計	37	101			
金属機械	鉄鋼	移出	93	116	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	354	331	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	447	447		
	非鉄金属・金属製品	移出	70	70	H18の貨物量を維持	H15以降は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	48	72	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	118	142		
	輸送機械(フェリ除)	移出	2,124	2,892	時系列直線回帰	2020年前後までは同様の増加が見込めることから、時系列直線回帰とする
		移入	967	1,449	時系列直線回帰	移出と同様に、2020年前後までは同様の増加が見込めることから、時系列直線回帰とする
		計	3,091	4,341		
	その他機械	移出	161	90	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
移入		110	78	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする	
	計	270	169			
化学工業品	石油類	移出	68	62	過去5カ年の平均	増減を繰り返しながら推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	2	2	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする
		計	69	63		
	セメント	移出	45	45	H18の貨物量を維持	近年は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	718	857	過去5カ年の平均	砂利・砂と同様に、長期的には大きな変動は見込めないことから、過去5カ年の平均とする
		計	763	902		
	その他	移出	155	155	H18の貨物量を維持	H18は増加に転じているため、現状維持とする
		移入	401	401	H18の貨物量を維持	H17以降は増加傾向で推移し、H18は急増しているため、現状維持とする
		計	555	555		
	軽工業品	紙・パルプ	移出	188	285	過去5カ年の平均
移入			1,618	1,883	過去5カ年の平均	今後は、大きな需要の拡大は難しいものと予想されるため、過去5カ年の平均とする
		計	1,806	2,168		
砂糖		移出	15	14	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
		移入	68	65	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	83	79		
その他		移出	459	459	H18の貨物量を維持	目標年次までは人口の減少は見られないため、現状維持とする
		移入	341	287	過去5カ年の平均	微増傾向で推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	800	746		
雑工業品		金属くず	移出	306	306	H18の貨物量を維持
	移入		200	200	H18の貨物量を維持	近年は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		計	506	506		
	廃棄物・廃土	移出	20	20	H18の貨物量を維持	減少傾向で推移しているため、現状維持とする
		移入	34	34	H18の貨物量を維持	近年は増加傾向で推移しているため、現状維持とする
		計	54	54		
	廃棄物・廃土	移出	1,544	1,544	H18の貨物量を維持	砂利・砂やセメントと同様に、廃土は長期的に大きな変動は見込めないことから、現状維持とする
		移入	9	17	過去5カ年の平均	ほぼ横ばいで推移しているため、過去5カ年の平均とする
		計	1,553	1,560		
	取合せ品	移出	1,828	2,977	時系列累乗回帰	大きく増加傾向で推移しており、時系列累乗回帰とする
移入		1,241	2,718	時系列累乗回帰	大きく増加傾向で推移しており、時系列累乗回帰とする	
	計	3,067	5,695			
その他	移出	482	505	高純回収量将来見直し	わが国の高純回収の将来見直しより推計	
	移入	161	115	過去5カ年の平均	微増傾向で推移しているため、過去5カ年の平均とする	
	計	644	620			
フェリ	移出	8,068	3,919	苦小牧航路分を削除	移出ともほぼ横ばいで推移しているため、既定計画の目標値から苦小牧航路を削除した値	
	移入	7,632	3,671	苦小牧航路分を削除	(H19に苦小牧航路が休止になったためとする)	
	計	15,700	7,590			
モーダルシフト分	移出	-	1,493	モーダルシフト推進による	東京圏発着品別距離別代表輸送機関別貨物流動量(物流センサスペース)で、モーダルシフト率が50%となった時のトラックから海運転換率より算出した海運貨物伸び率より推計	
	移入	-	1,147	増加貨物量		
	計	-	2,640			
合計	移出	15,817	15,685			
	移入	16,279	15,694			
	計	32,096	31,379			

1) 内貿公共ユニット貨物・フィーダー貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共ユニット貨物・フィーダー貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表 2-6 内貿公共ユニット貨物・フィーダー貨物取扱量の設定

	H18取扱量		設定値		設定の考え方
	(千TEU)	(千トン)	(千TEU)	(千トン)	
内貿ユニット	-	9,420	-	15,651	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の推移から推計された品目別出入別内貿ユニット化率、フィーダー化率から品目別ユニット貨物量、フィーダー貨物量を推計。 ・モーダルシフト分を推計。 ・内貿フィーダー貨物については1TEUあたりトン数より取扱個数(TEU)を推計。
内貿フィーダー	107	538	187	946	
合 計	107	9,958	187	16,596	

2) 内貿公共一般貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共一般貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表2-7 内貿公共一般貨物取扱量の設定

品目	出入	(千トン)		設定の考え方
		H18 取扱量	設定値 H20代後半	
農水産品	米穀類	移出	6	6
		移入	21	23
		計	27	30
	野菜・果物	移出	11	11
		移入	8	14
		計	19	25
	水産品	移出	3	3
		移入	11	11
		計	15	15
	その他	移出	0	2
移入		5	11	
計		6	14	
林産品	原木	移出	0	0
		移入	5	4
		計	5	4
	製材	移出	2	2
		移入	0	2
		計	3	3
	その他	移出	2	1
移入		2	2	
計		4	3	
鉱産品	石炭	移出	1	0
		移入	2	3
		計	3	3
	砂・砂利	移出	15	523
		移入	2,101	1,974
		計	2,116	2,497
	原油	移出	-	-
		移入	-	-
計		-	-	
その他	移出	0	9	
	移入	27	79	
	計	27	88	
金属機械	鉄鋼	移出	56	70
		移入	330	308
		計	386	378
	非鉄金属・ 金属製品	移出	32	28
		移入	32	49
		計	65	76
	輸送機械 (フェリー除)	移出	76	94
		移入	50	63
計		126	156	
その他機械	移出	9	14	
	移入	40	8	
	計	48	22	
化学工業品	石油類	移出	23	21
		移入	1	1
		計	23	21
	セメント	移出	44	44
		移入	714	854
		計	758	898
その他	移出	19	19	
	移入	150	150	
	計	169	169	
軽工業品	紙・パルプ	移出	18	12
		移入	455	509
		計	474	522
	砂糖	移出	0	0
		移入	0	2
		計	0	2
その他	移出	48	46	
	移入	125	105	
	計	173	151	
雑工業品	移出	70	72	
	移入	72	41	
	計	142	112	
特殊品	金属くず	移出	19	19
		移入	26	25
		計	44	44
	廃棄物・ 廃土・砂	移出	1,543	1,543
		移入	9	16
		計	1,552	1,559
	取合せ品	移出	147	240
		移入	37	102
計		184	343	
その他	移出	32	25	
	移入	38	32	
	計	70	56	
分類不能のもの	移出	-	-	
	移入	-	-	
	計	-	-	
合計	移出	2,177	2,804	
	移入	4,261	4,389	
	計	6,438	7,192	

内貿公共貨物推計値から内貿公共ユニット貨物、内貿公共フィーダー貨物及び内貿公共フェリー貨物推計値を除いたものを内貿公共一般貨物推計値とした

3) 内貿公共フェリー貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共フェリー貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表 2 - 8 内貿公共フェリー貨物取扱量の設定

(千トン)				設定の考え方
航路方面別	出入	H18 取扱量	設定値 H20代後半	
苦小牧	移出	3,995	-	苦小牧航路が平成19年に休止となったため(現在は新門司航路のみ)、既定計画値の苦小牧航路を減
	移入	3,847	-	
	計	7,842	-	
新門司	移出	4,072	3,919	
	移入	3,785	3,671	
	計	7,858	7,590	
合計	移出	8,068	3,919	
	移入	7,632	3,671	
	計	15,700	7,590	

② 内貿専用貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿専用貨物の取扱量の設定値と設定の考え方は、それぞれ次のとおりである。

表 2 - 9 内貿専用貨物取扱量の設定

品 目		(千トン)		設定の考え方	
		出入	H18 取扱量 H20代後半		
農 水 産 品	米 穀 類	移 出	-		
		移 入	-		
		計	-		
	野 菜 ・ 果 物	移 出	-		
		移 入	18	中央卸売市場取扱分	
		計	18		
水 産 品	移 出	-			
	移 入	8	中央卸売市場取扱分		
	計	8			
そ の 他	移 出	-			
	移 入	-			
	計	-			
林 産 品	原 木	移 出	-		
		移 入	-		
		計	-		
	製 材	移 出	-		
		移 入	-		
		計	-		
そ の 他	移 出	-			
	移 入	-			
	計	-			
鉱 産 品	石 炭	移 出	-		
		移 入	2	実績より、取扱いは見込まない	
		計	2		
	砂 ・ 砂 利	移 出	52	29	過去3年(H16-18)平均値
		移 入	4,092	4,242	過去3年(H16-18)平均値
		計	4,144	4,271	
原 油	移 出	-			
	移 入	860	897	過去3年(H16-18)平均値	
	計	860	897		
そ の 他	移 出	1	-	実績より、取扱いは見込まない	
	移 入	-	-		
	計	1	-		
金 属 機 械	鉄 鋼	移 出	3	3	過去3年(H16-18)平均値
		移 入	929	905	過去3年(H16-18)平均値
		計	932	908	
	非鉄金属・ 金属製品	移 出	8	5	過去3年(H16-18)平均値
		移 入	-	-	
		計	8	5	
輸 送 機 械 (フェリ-除)	移 出	-	-		
	移 入	-	-		
	計	-	-		
そ の 他 機 械	移 出	-	-		
	移 入	-	-		
	計	-	-		
化 学 工 業 品	石 油 類	移 出	313	326	過去3年(H16-18)平均値
		移 入	4,250	4,413	過去3年(H16-18)平均値
		計	4,564	4,739	
	セ メ ン ト	移 出	8	-	実績より、取扱いは見込まない
		移 入	2,192	2,339	過去3年(H16-18)平均値
		計	2,200	2,339	
そ の 他	移 出	-	-		
	移 入	1	-	実績より、取扱いは見込まない	
	計	1	-		
軽 工 業 品	紙 ・ パ ル プ	移 出	-	-	
		移 入	-	-	
		計	-	-	
	砂 糖	移 出	-	-	
		移 入	-	-	
		計	-	-	
そ の 他	移 出	129	122	過去3年(H16-18)平均値	
	移 入	-	-		
	計	129	122		
雑 工 業 品	移 出	-	-		
	移 入	-	-		
	計	-	-		
特 殊 品	金 属 く ず	移 出	-	-	
		移 入	2	2	過去3年(H16-18)平均値
		計	2	2	
	廃 棄 物 ・ 砂 塵	移 出	-	-	
		移 入	0	-	実績より、取扱いは見込まない
		計	0	-	
取 合 せ 品	移 出	-	-		
	移 入	-	-		
	計	-	-		
そ の 他	移 出	3	3	H18実績値	
	移 入	11	11	H18実績値	
	計	14	14		
分 類 不 能 の も の	移 出	-	-		
	移 入	-	-		
	計	-	-		
合 計	移 出	518	488		
	移 入	12,339	12,835		
	計	12,857	13,322		

2-2 入港船舶隻数の推計

(1) 入港船舶隻数の設定の方針

以下のフローに従い、入港船舶隻数を設定した。

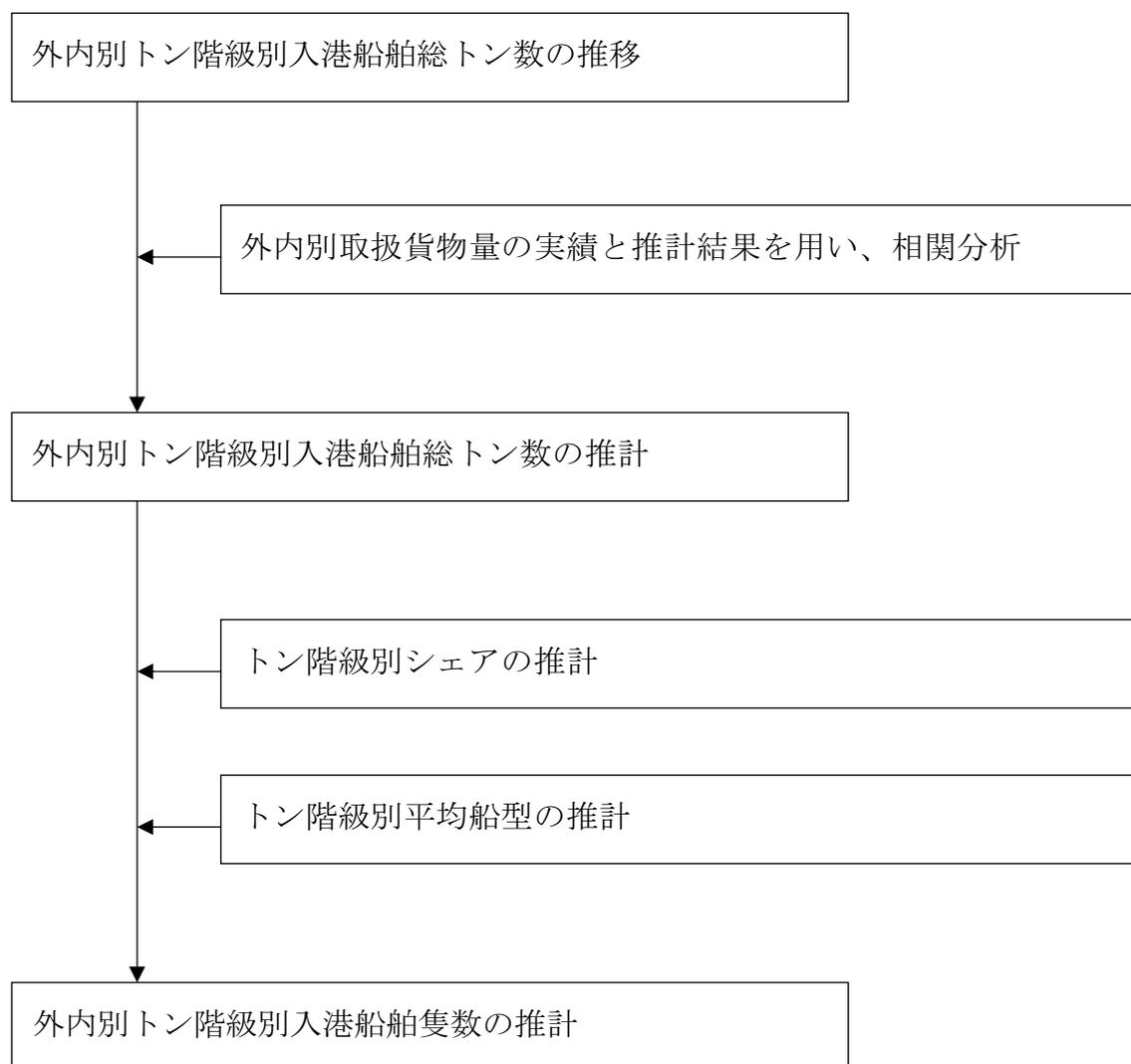


図2-2 入港船舶隻数の設定フロー

(2) 入港船舶隻数の設定

入港船舶隻数の設定は、以下のとおりである。

表2-10 入港船舶隻数の設定

船舶種類	トン階級(G/T)	実績値					参考値	既定計画値	今回推計値
		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20代後半	H20代後半
外航船舶	5～99								
	100～499	1	2	1	2	2	3	2	2
	500～999	54	38	34	41	21	13	76	7
	1,000～2,999	434	569	501	530	517	517	550	616
	3,000～5,999	817	924	891	826	592	438	1,164	466
	6,000～9,999	1,197	1,540	1,892	2,392	2,566	2,458	2,578	4,904
	10,000～19,999	1,300	1,451	1,414	1,339	1,348	1,360	2,251	1,209
	20,000～29,999	219	186	156	138	131	168	272	122
	30,000～39,999	183	191	228	273	236	250	229	205
	40,000～49,999	498	426	451	321	230	190	592	59
	50,000～59,999	378	519	484	608	561	467	586	843
	60,000～	367	310	312	347	496	587	450	596
	合計	5,448	6,156	6,364	6,817	6,700	6,451	8,750	9,028
うちコンテナ船 (フルコンテナ船・ セミコンテナ船)	5～99								
	100～499				1				
	500～999				1		1		
	1,000～2,999	62	63	40	28	35	30	62	26
	3,000～5,999	372	484	538	537	402	286	550	423
	6,000～9,999	1,084	1,455	1,742	2,157	2,307	2,226	2,418	3,953
	10,000～19,999	1,151	1,320	1,294	1,219	1,235	1,252	2,029	1,125
	20,000～29,999	146	134	111	103	94	143	160	107
	30,000～39,999	171	180	218	266	226	241	208	192
	40,000～49,999	498	410	424	302	221	187	591	36
	50,000～59,999	377	518	484	608	560	466	585	842
	60,000～	364	307	310	347	496	585	446	593
	合計	4,225	4,871	5,161	5,569	5,576	5,417	7,049	7,296
内航船舶	5～99	3,384	3,054	2,369	1,847	1,627	1,668	4,049	2,531
	100～499	17,912	18,200	17,301	16,908	16,345	16,006	20,690	18,138
	500～999	1,613	1,600	1,597	1,667	1,827	1,952	1,780	1,868
	1,000～2,999	1,036	801	644	617	905	1,172	1,326	1,209
	3,000～5,999	1,876	1,746	1,845	1,806	1,756	1,651	2,320	2,318
	6,000～9,999	1,051	1,058	1,035	1,051	1,000	1,069	1,340	1,439
	10,000～19,999	462	594	811	816	834	870	727	1,560
	20,000～29,999	64	61	22	15	18	23	86	36
	30,000～39,999	3	3	3	1	1	1	1	2
	40,000～49,999			1		1		2	1
	50,000～59,999					1	2		1
	60,000～								
	合計	27,398	27,117	25,628	24,728	24,315	24,413	32,321	29,102
内航フェリー	10,000～19,999	631	639	641	635	638	458	631	349
	合計	631	639	641	635	638	458	631	349
合計	5～99	3,384	3,054	2,369	1,847	1,627	1,668	4,049	2,531
	100～499	17,913	18,202	17,302	16,910	16,347	16,009	20,692	18,140
	500～999	1,667	1,638	1,631	1,708	1,848	1,965	1,856	1,875
	1,000～2,999	1,470	1,370	1,145	1,147	1,422	1,689	1,876	1,826
	3,000～5,999	2,693	2,670	2,736	2,632	2,348	2,089	3,484	2,784
	6,000～9,999	2,248	2,598	2,927	3,443	3,566	3,527	3,918	6,342
	10,000～19,999	2,393	2,684	2,866	2,790	2,820	2,688	3,609	3,117
	20,000～29,999	283	247	178	153	149	191	358	158
	30,000～39,999	183	194	231	274	237	250	230	207
	40,000～49,999	498	426	452	321	231	190	594	60
	50,000～59,999	378	519	484	608	562	469	586	844
	60,000～	367	310	312	347	496	587	450	596
	合計	33,477	33,912	32,633	32,180	31,653	31,322	41,702	38,479

3 施設計画に関する資料

3-1 公共埠頭計画

(1) 公共埠頭の利用状況

公共埠頭の利用状況は次のとおりである。

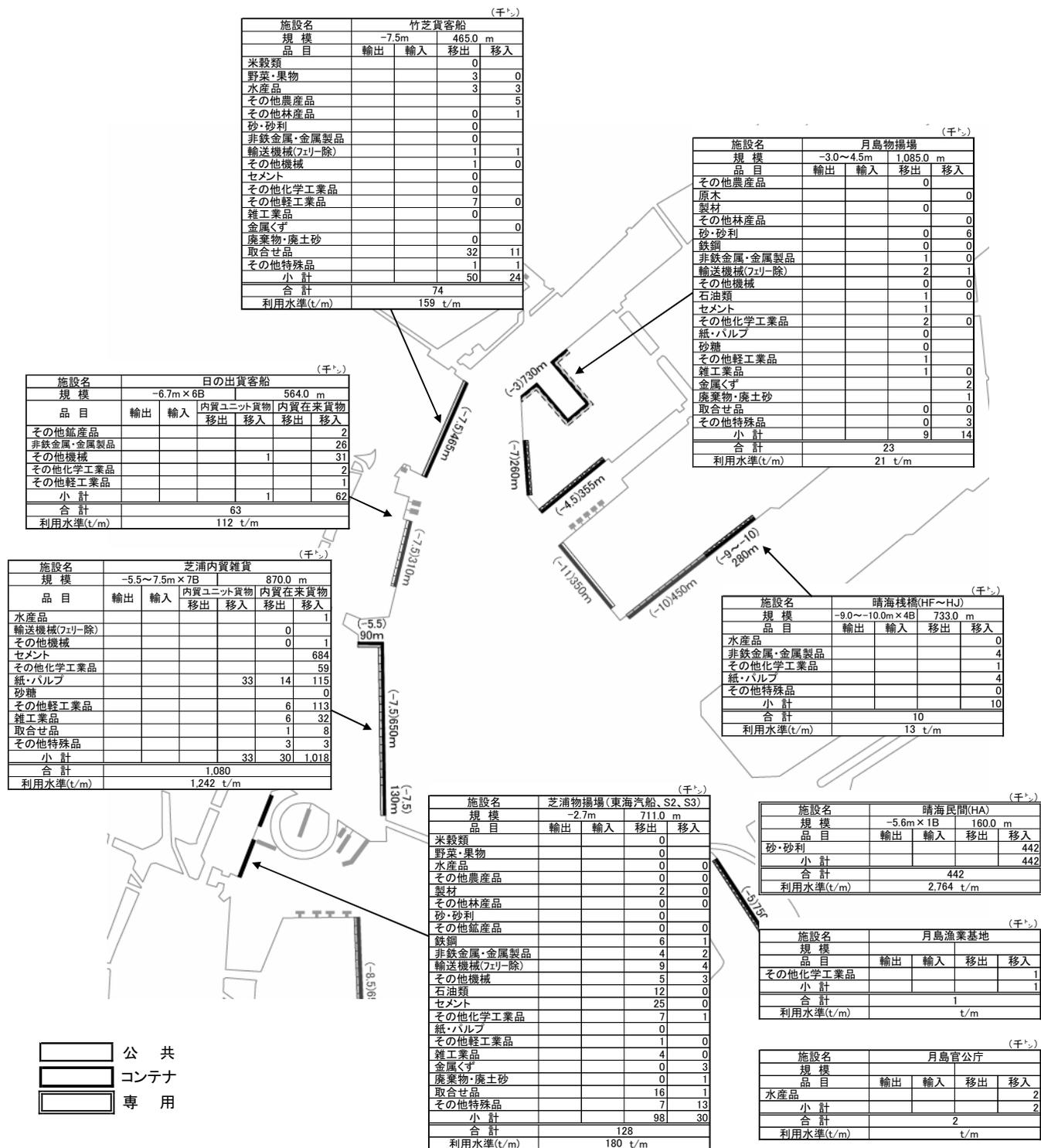
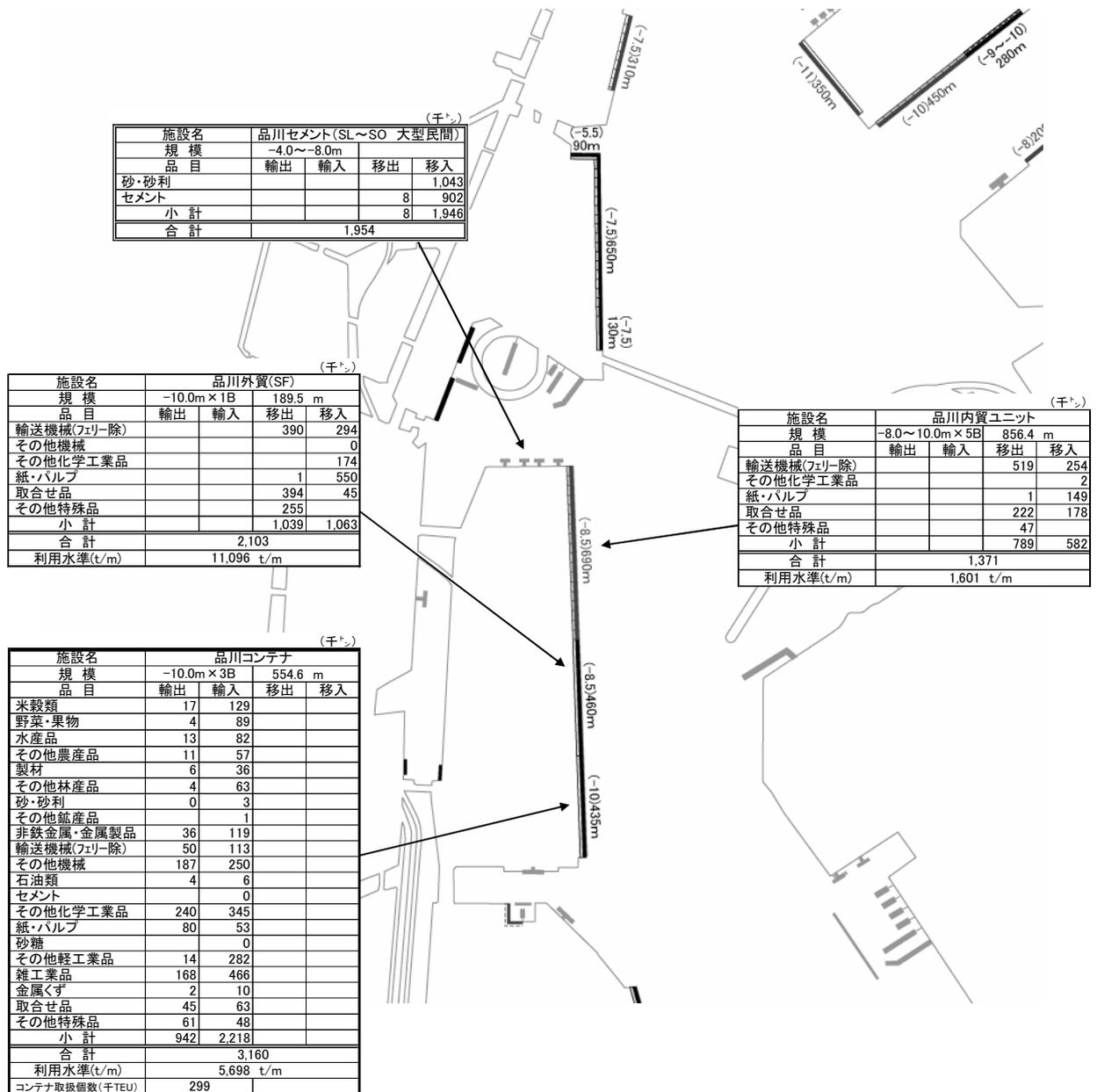


図3-1(1) 公共埠頭取扱状況図(内港地区(1):品川ふ頭除く)(平成18年)



- 公 共
- コンテナ
- 専 用

図3-1(2) 公共埠頭取扱状況図(内港地区(2):品川ふ頭)(平成18年)

(千t)

施設名	お台場ライン(AA~AI)			
	規模		1,800.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
米穀類		16		
野菜・果物		109		
水産品				
その他農産品		20		
原木		0		
製材	2	150		
その他林産品		0		
その他鉱産品		6		2
鉄鋼	26	58		
非鉄金属・金属製品	2	11		
輸送機械(フェリー除)	1	0	0	
その他機械	8	5		
石油類		1		
セメント	11			
その他化学工業品		5		
紙・パルプ		46		
砂糖		0		
その他軽工業品		5		
雑工業品		89		
金属くず	525	2	3	0
取合せ品		14		
その他特殊品	208	12		
小計	782	550	3	3
合計		1,338		
利用水準(t/m)		743	t/m	
コンテナ取扱個数(千TEU)	7			

(千t)

施設名	10号地その2(東)内貿雑貨			
	規模		920.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
原木				0
製材			0	0
その他林産品				0
砂・砂利			0	
鉄鋼			18	170
非鉄金属・金属製品			1	0
輸送機械(フェリー除)			0	0
その他機械			0	0
石油類			0	
セメント			0	19
その他化学工業品			1	0
紙・パルプ			5	269
雑工業品			0	7
金属くず			13	0
廃棄物・廃土砂				0
その他特殊品			14	0
小計			52	466
合計			518	
利用水準(t/m)			563	t/m



(千t)

施設名	10号地鉄鋼(KK,KN)			
	規模		1,209.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
砂・砂利				13
鉄鋼		16		858
非鉄金属・金属製品		6		
金属くず	2			
小計	2	21		871
合計				894
利用水準(t/m)				740

(千t)

施設名	青海コンテナ公社(A3~A4)			
	規模		700.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
米穀類	4	168	2	
野菜・果物	6	156	2	
水産品	31	79	0	
その他農産品	11	186	4	
原木		6		
製材	3	324	3	
その他林産品	135	28		
石炭		0		
砂・砂利	10	121		
原油	0	1		
その他鉱産品	0	2		
鉄鋼	29	6		
非鉄金属・金属製品	70	34		
輸送機械(フェリー除)	602	116		
その他機械	398	342		
石油類	1	3		
セメント		0		
その他化学工業品	292	193	1	
紙・パルプ	91	130	1	
砂糖		1		
その他軽工業品	111	481	6	
雑工業品	519	771	0	
金属くず	8	7		
廃棄物・廃土砂	0			
取合せ品	52	1,184	17	51
その他特殊品	138	167	5	
小計	2,513	4,507	42	51
合計			7,113	
利用水準(t/m)			10,161	t/m
コンテナ取扱個数(千TEU)	517			27

(千t)

施設名	フェリーふ頭			
	規模		902.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
製材				0
その他林産品				8
砂・砂利				0
鉄鋼			14	12
輸送機械(フェリー除)			19	23
石油類			21	
紙・パルプ			11	28
砂糖				2
その他軽工業品			26	10
雑工業品			10	0
取合せ品			18	12
その他特殊品			1	
フェリー			8,068	7,632
小計			8,189	7,726
合計			15,915	
利用水準(t/m)			17,644	t/m

(千t)

施設名	青海コンテナ公共(A0~A2)			
	規模		870.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
米穀類	0	2		
野菜・果物	1	39		
水産品	46	263		
その他農産品	2	172		
原木	0	0		
製材	0	9		
その他林産品	5	7		
砂・砂利	0	11		
原油	0	0		
その他鉱産品	0	0		
鉄鋼	1	1		
非鉄金属・金属製品	15	6		
輸送機械(フェリー除)	78	42		
その他機械	463	956	0	
石油類	1	43		
セメント		0		
その他化学工業品	261	211		
紙・パルプ	267	61		
砂糖		17		
その他軽工業品	179	462		
雑工業品	424	1,219		
金属くず	0	2		
取合せ品	262	481		
その他特殊品	152	16		
小計	2,156	4,022	0	
合計			6,178	
利用水準(t/m)			7,101	t/m
コンテナ取扱個数(千TEU)	636			

(千t)

施設名	10号地その2(西)内貿ユニット			
	規模		1,500.0 m	
品目	輸出	輸入	内貿ユニット貨物	
			移出	移入
米穀類		38	13	5
野菜・果物		10	14	8
水産品		6	2	
その他農産品		3	7	
製材	2	10		
その他林産品	4	27		
石炭		1		
砂・砂利	3	4		
原油		0		
その他鉱産品	1	9		
鉄鋼	19	11	0	2
非鉄金属・金属製品	28	10	14	
輸送機械(フェリー除)	1,122	344	38	16
その他機械	144	66		
石油類	14	1		
セメント	1	2		6
その他化学工業品	85	62		21
紙・パルプ	88	351		21
砂糖	9	8		
その他軽工業品	242	139	26	10
雑工業品	143	112	14	26
金属くず	0	5		
廃棄物・廃土砂	0	1		
取合せ品	831	634	95	16
その他特殊品	92	47		3
小計	2,886	1,879	202	133
合計			5,100	
利用水準(t/m)			3,400	t/m

図3-1(3) 公共埠頭取扱状況図(中部地区)(平成18年)

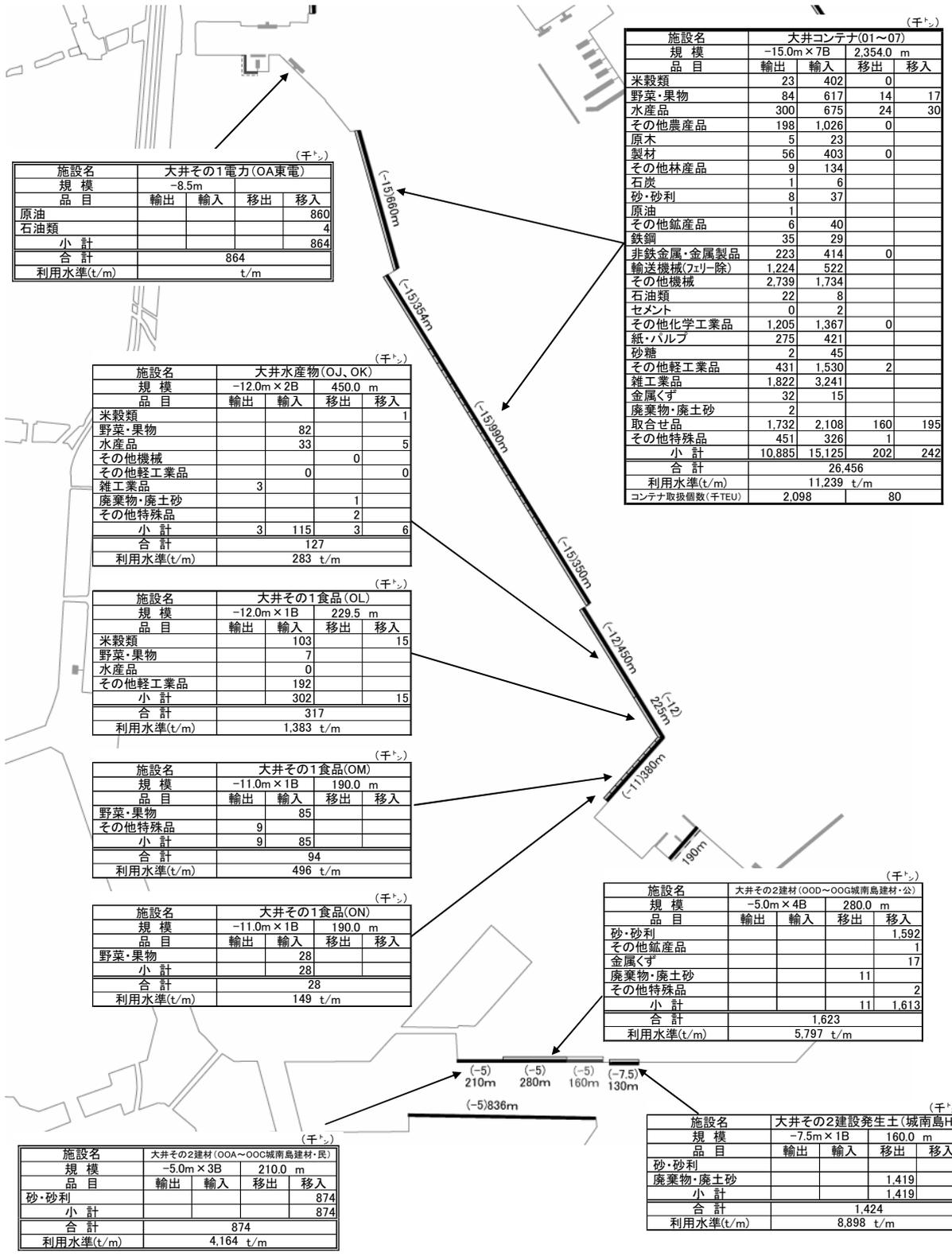


図3-1(4) 公共埠頭取扱状況図(南部地区)(平成18年)

施設名 辰巳内貿雑貨 (千ト)							
規模	-5.0m×13B				1,040.0 m		
品目	輸出	輸入	内貿ユニット貨物		内貿在来貨物		
			移出	移入	移出	移入	
米穀類						0	
野菜・果物						0	
水産品						0	
その他農産品						0	
原木						0	1
製材						0	0
その他林産品						1	0
砂・砂利						4	2
その他鉱産品						0	0
鉄鋼				2	30	155	
非鉄金属・金属製品						11	1
輸送機械(フォーク)						14	6
その他機械						2	3
石油類						10	0
セメント						18	
その他化学工業品						9	7
紙・パルプ						0	
その他軽工業品						7	0
雑工業品						45	6
金属くず						1	3
廃棄物・廃土砂						0	0
取合せ品						1	0
その他特殊品						6	12
小計						2	159
合計						358	
利用水準(t/m)						344	t/m

施設名 若洲民間(LLA.LLB.LOALOB.LOD.LM) (千ト)				
規模	-4.5~5.5m×6B		610.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
砂・砂利			2	639
石油類				1,648
セメント				1,079
その他化学工業品				1
金属くず				2
廃棄物・廃土砂				0
その他特殊品				0
小計			2	3,369
合計				3,371
利用水準(t/m)				5,527 t/m

施設名 砂町民間(U2~U4, U6~U11) (千ト)				
規模	-2.0~4.0m×4B		187.5 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
砂・砂利				1,035
鉄鋼				48
小計				1,083
合計				1,083
利用水準(t/m)				5,776 t/m

施設名 15号地建材(LLC~LLF公共) (千ト)				
規模	-5.5m×4B		370.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
砂・砂利			1	487
その他鉱産品				20
その他化学工業品				36
紙・パルプ				3
廃棄物・廃土砂			2	4
小計			3	550
合計				553
利用水準(t/m)				1,495 t/m

施設名 15号地内貿 (千ト)							
規模	-11.0m×1B				190.0 m		
品目	輸出	輸入	内貿ユニット貨物		内貿在来貨物		
			移出	移入	移出	移入	
米穀類			10	7			
野菜・果物			2	21			
水産品			3	0			
その他農産品			2	7			
原木			0	0			
製材			5	3			
その他林産品			5	1			
石炭			0	0			
砂・砂利			3	0			
その他鉱産品			0	0			
鉄鋼			4	0			
非鉄金属・金属製品			7	4			
輸送機械(フォーク)			7	19			
その他機械			6	2			
石油類			0	0			
セメント			0	1			
その他化学工業品			41	11			
紙・パルプ			56	71			
砂糖			4	55			
その他軽工業品			105	58			
雑工業品			67	13			
金属くず			0	2			
廃棄物・廃土砂			1	0			
取合せ品			30	72			
その他特殊品			42	57			
小計			406	405			
合計				811			
利用水準(t/m)				4,267 t/m			

施設名 俳優 (千ト)					
規模	-7.5m		3基		
品目	輸出	輸入	移出	移入	
原木	8	181			
製材		1			
雑工業品		3			
小計	8	185			
合計					193

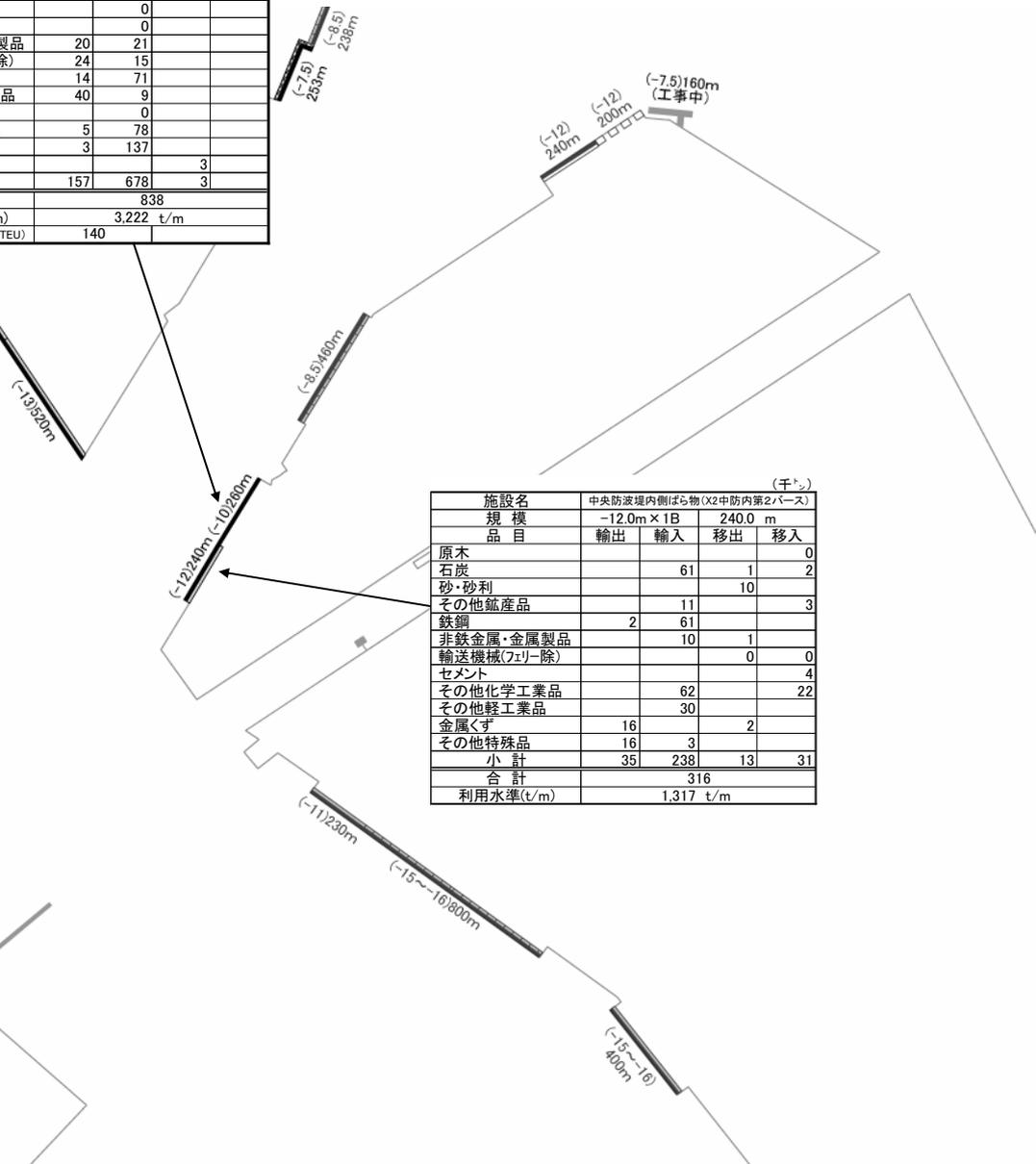
施設名 ドルフィン (千ト)					
規模	-10.0m		14基		
品目	輸出	輸入	移出	移入	
原木		1	0	4	
製材		2			
砂・砂利				9	
鉄鋼			2		
廃棄物・廃土砂				110	
小計		3	111	12	
合計				127	

- 公 共
- コンテナ
- 専 用

図3-1(5) 公共埠頭取扱状況図(東部地区)(平成18年)

(千トン)

施設名	中防内外貨雑貨			
	-10.0m×1B		260.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
米穀類		0		
野菜・果物		335		
水産品	0	1		
その他農産品	0	3		
製材	1	7		
その他林産品	0	0		
原油		0		
その他鉱産品		0		
非鉄金属・金属製品	20	21		
輸送機械(フェリ-除)	24	15		
その他機械	14	71		
その他化学工業品	40	9		
紙・パルプ		0		
その他軽工業品	5	78		
雑工業品	3	137		
取合せ品				3
小計	157	678		3
合計			838	
利用水準(t/m)			3,222 t/m	
コンテナ取扱個数(千TEU)	140			



(千トン)

施設名	中央防波堤内側ばら物(X2中防内第2バース)			
	-12.0m×1B		240.0 m	
品目	輸出	輸入	移出	移入
原木				0
石炭		61	1	2
砂・砂利			10	
その他鉱産品		11		3
鉄鋼	2	61		
非鉄金属・金属製品		10	1	
輸送機械(フェリ-除)			0	0
セメント				4
その他化学工業品		62		22
その他軽工業品		30		
金属くず	16		2	
その他特殊品	16	3		
小計	35	238	13	31
合計			316	
利用水準(t/m)			1,317 t/m	

(千トン)

施設名	京浜島ふ頭(民間)			
	輸出	輸入	移出	移入
砂・砂利			50	46
その他鉱産品			1	
廃棄物・廃土砂				0
その他特殊品			3	11
小計			55	56
合計			111	
利用水準(t/m)			t/m	

(千トン)

施設名	東雲運河筋(U8 民間)			
	輸出	輸入	移出	移入
セメント				186
小計				186
合計		186		
利用水準(t/m)		t/m		

(千トン)

施設名	その他(民間)			
	輸出	輸入	移出	移入
石炭				2
鉄鋼			3	23
非鉄金属・金属製品			8	
石油類			313	2,598
セメント				25
その他軽工業品			129	
小計			453	2,647
合計			3,101	
利用水準(t/m)			t/m	

- 公共
- コンテナ
- 専用

図3-1(6) 公共埠頭取扱状況図(中央防波堤地区)(平成18年)

(2) 公共埠頭計画の概要

①外貿コンテナ埠頭計画

外貿コンテナ貨物需要の増大、外貿コンテナ船の更なる大型化に対応するため、大水深のコンテナ埠頭のうち、以下の施設について計画を変更する。

表 3 - 1 外貿コンテナ埠頭計画

地区名	埠頭名	水深	バース数	延長	種別
南部地区 (大井ふ頭その1)	大井コンテナ	15~16m	7	2,354m	既設の 変更
中部地区 (13号地)	青海コンテナ	15~16m	2	700m	既設の 変更
中央防波堤地区 (中央防波堤外側) (新海面処分場)	中央防波堤外側 コンテナ	16~16.5m	1	400m	既定計画 の変更
	新海面処分場 コンテナ	16~16.5m	1	420m	既定計画 の変更

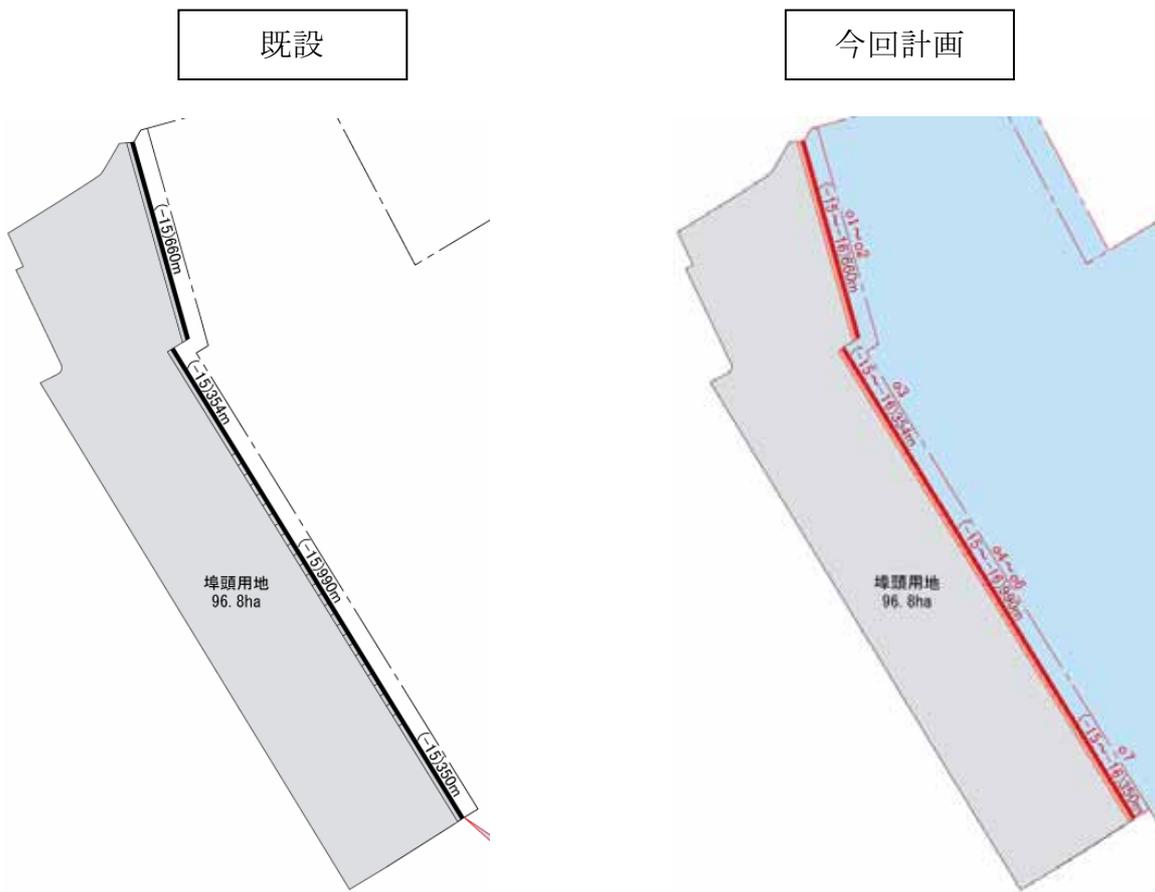


図 3-2 大井コンテナ埠頭計画対比図

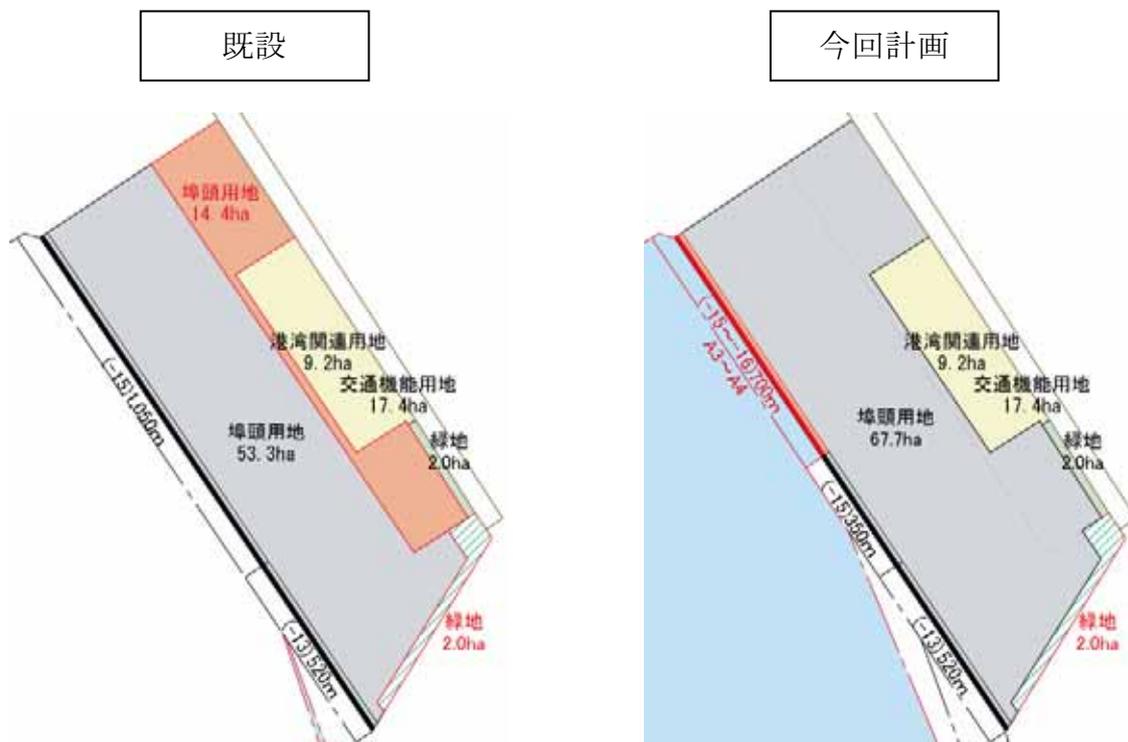


図 3-3 青海コンテナ埠頭計画対比図

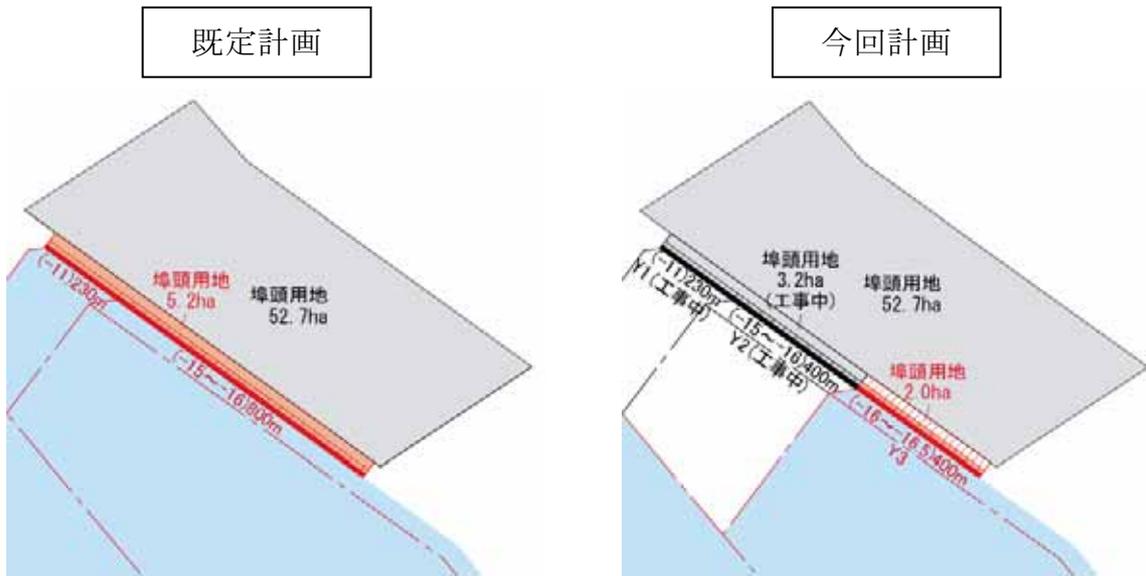


図 3 - 4 中央防波堤外側コンテナ埠頭計画対比図

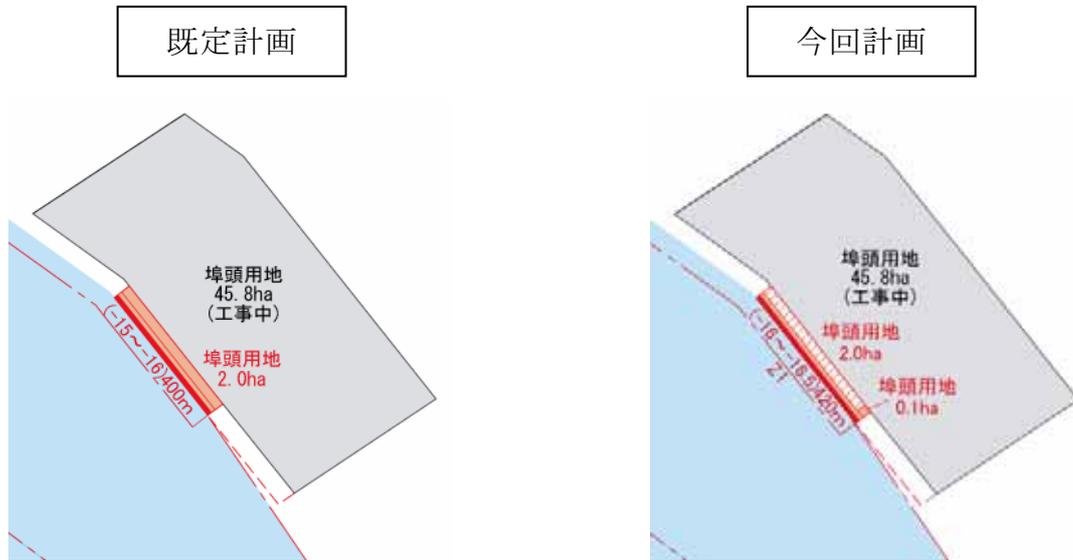


図 3 - 5 新海面処分場コンテナ埠頭計画対比図

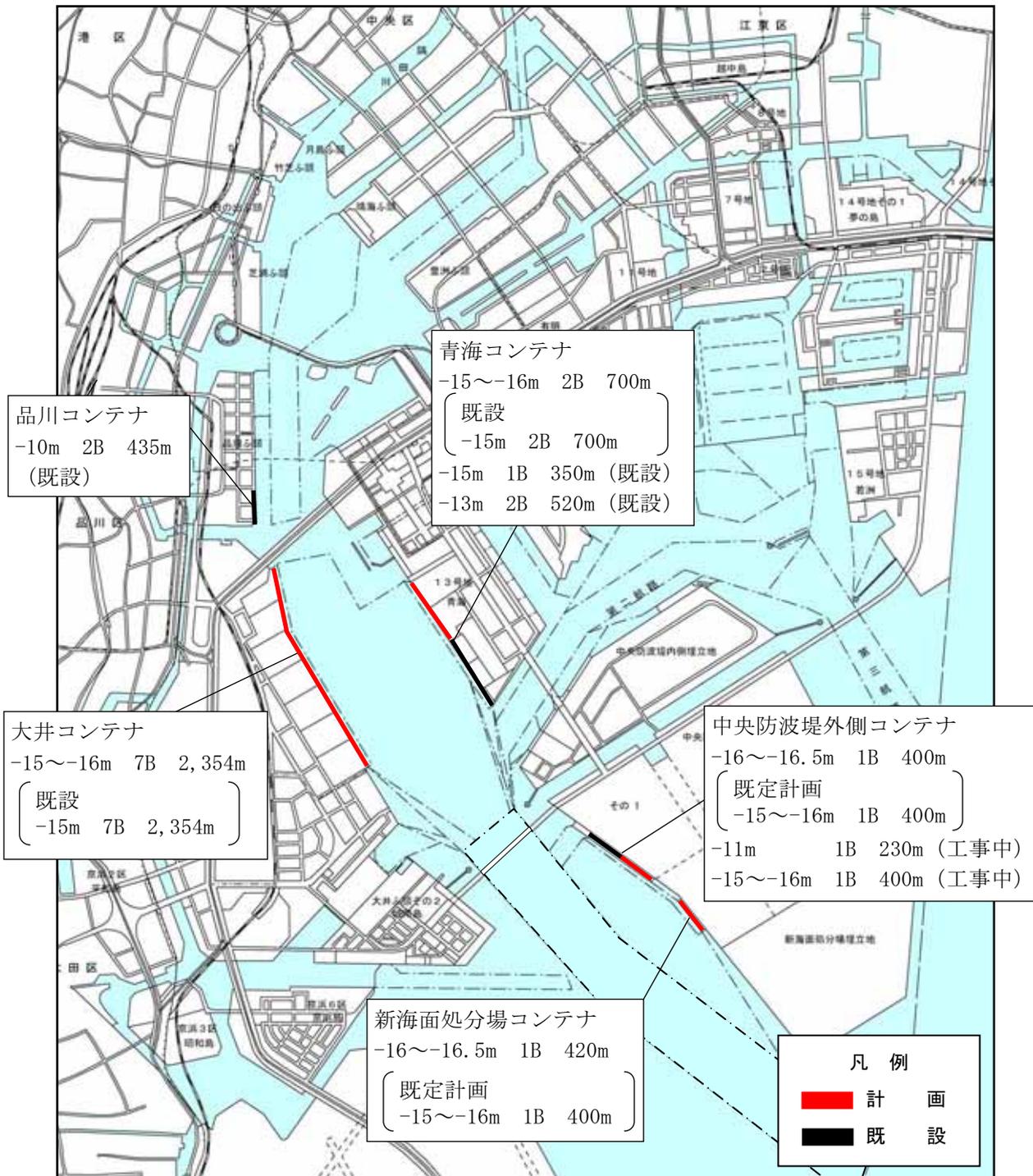


図3-6 外貿コンテナ埠頭計画

②外内貿埠頭計画

水産品等の外貿貨物及び増大する内航フィーダー需要等に対応するため、外内貿埠頭を以下のとおり計画する。

表 3 - 2 外内貿埠頭計画

地区名	埠頭名	水深	バース数	延長	種別
南部地区 (大井ふ頭その1)	大井多目的	11m	1	200m	新規
		12m	1	250m	既設の 変更

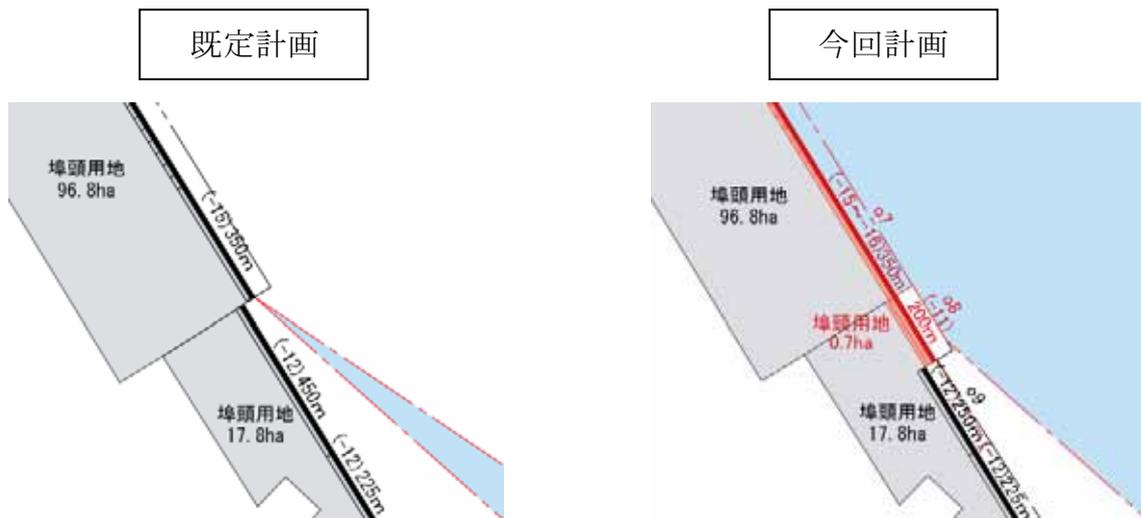


図 3 - 7 大井埠頭（その1）計画対比図

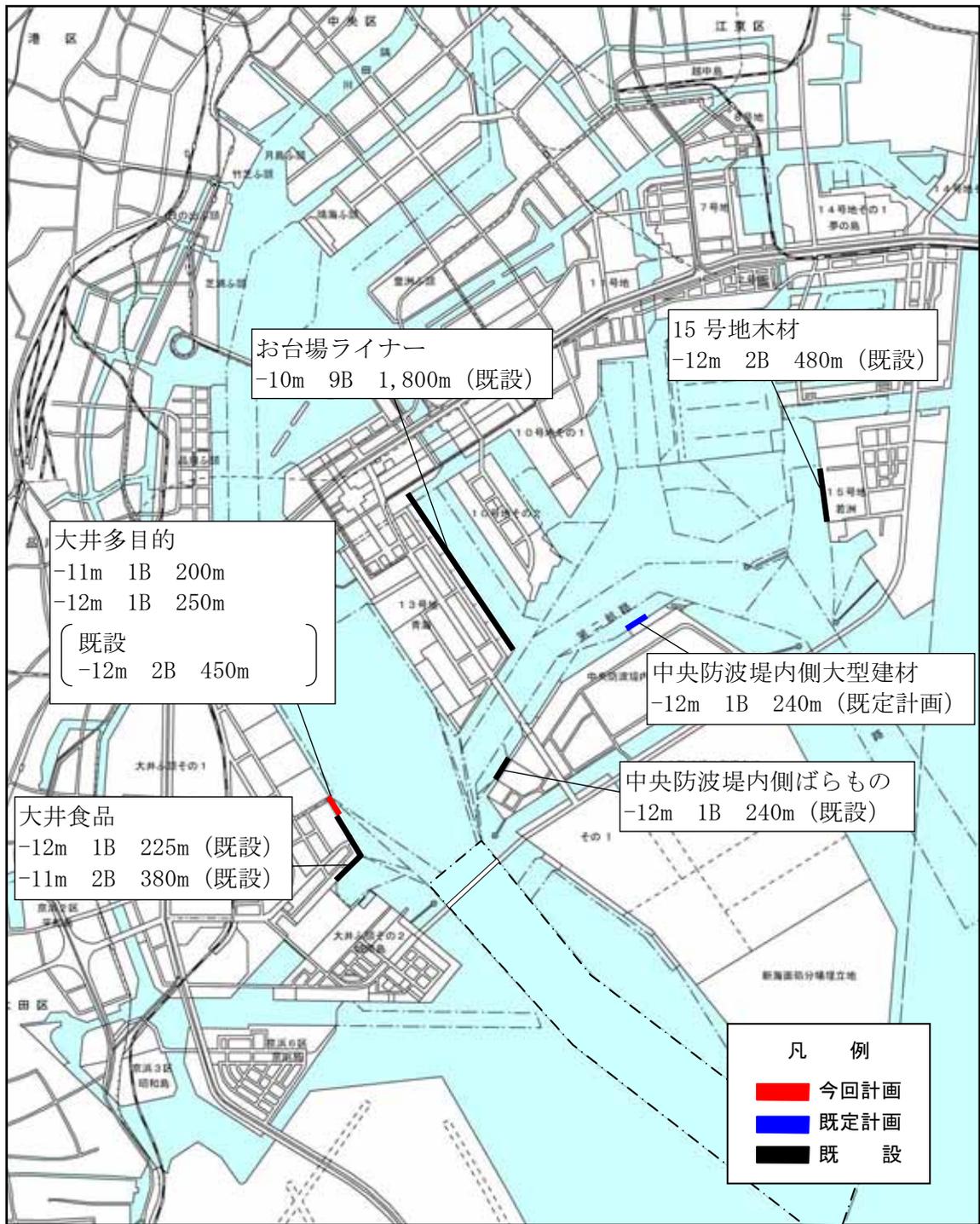


図3-8 外貿埠頭・外内貿埠頭計画

③内貿埠頭計画

化学工業品等の内貿貨物及びフェリーに対応するため、多目的に利用する内貿埠頭として、以下の施設を追加する。

表 3 - 3 内貿埠頭計画

地区名	埠頭名	水深	バース数	延長	種別
中部地区 (10号地その2)	10号地その2多目的	8.5m	2	530m	既定計画 の変更

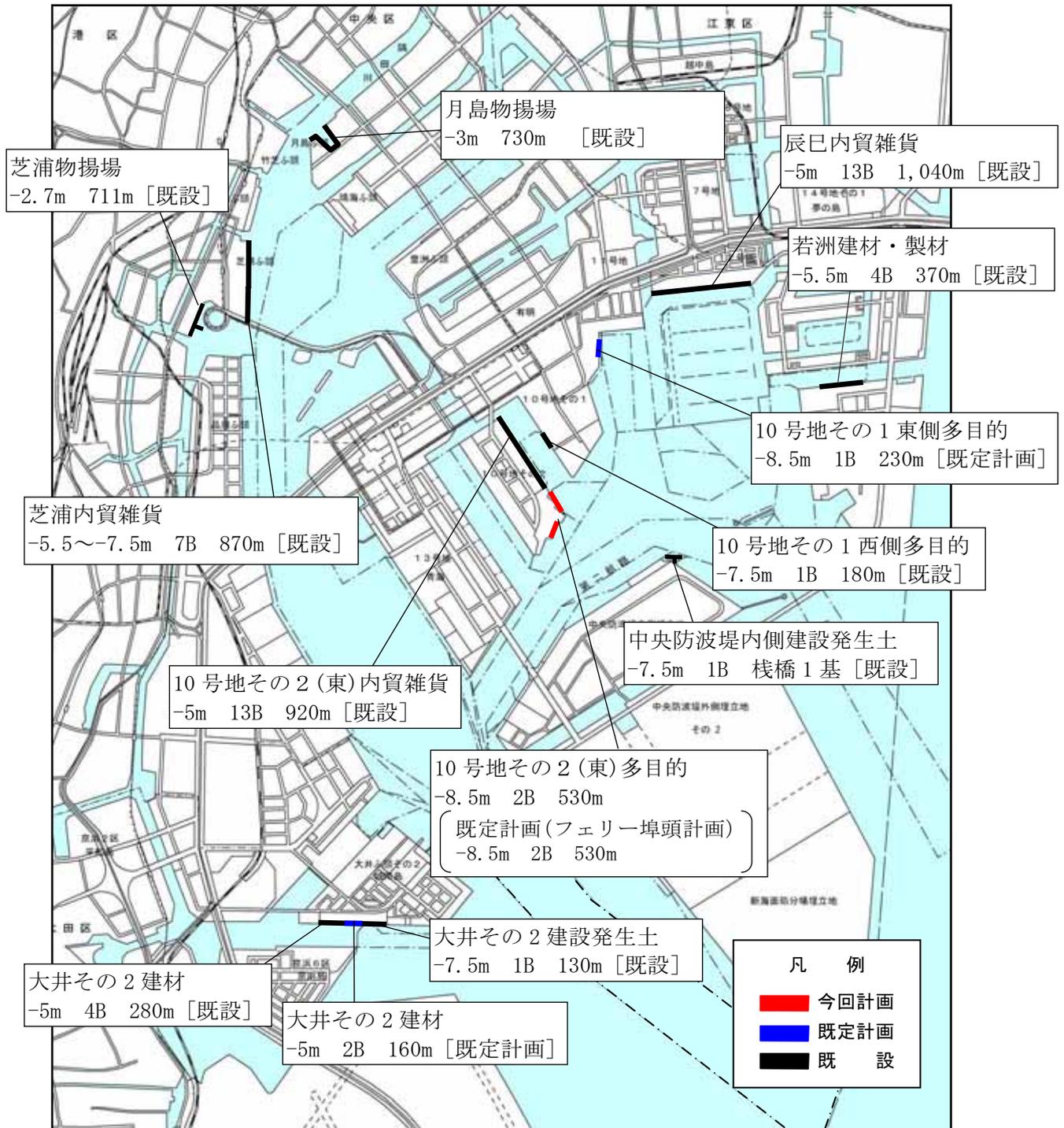


図 3 - 9 内貿埠頭計画

3-2 水域施設計画

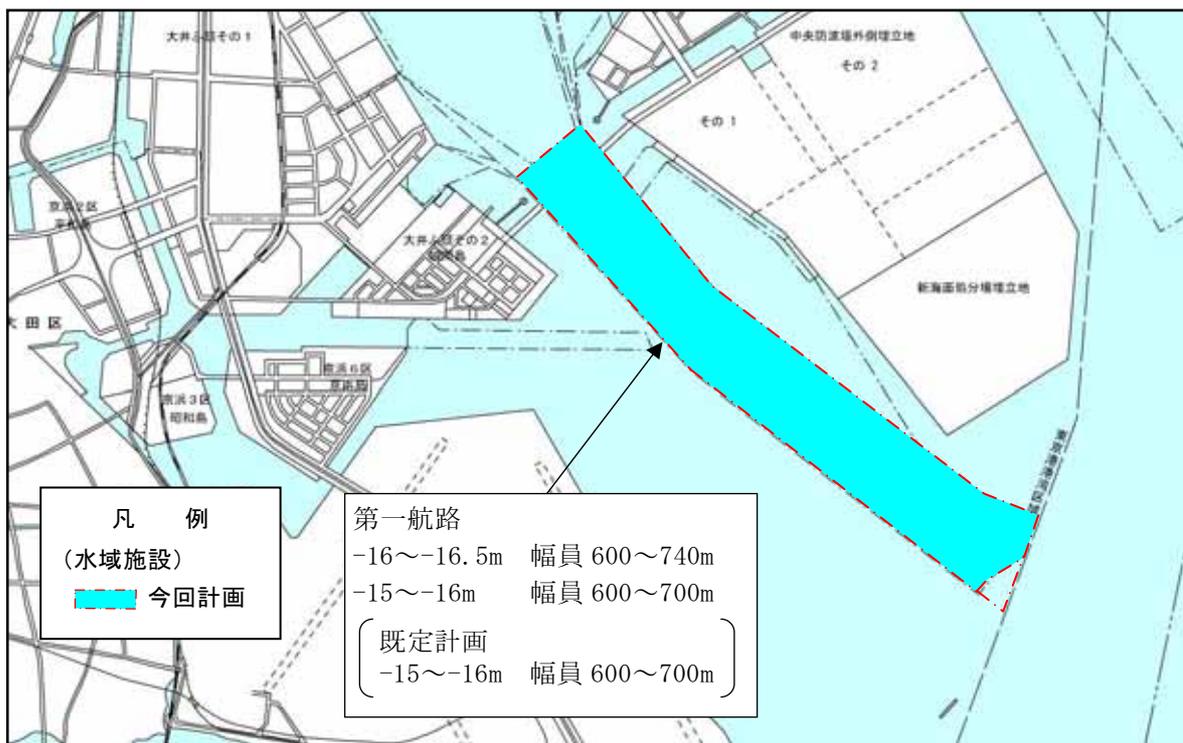
(1) 航路計画の概要

係留施設の水深の変更等に対応するため、航路のうち、以下の施設について計画を変更する。

表 3-4 航路計画

航路名	今回計画		既定計画		種別
	水深 (m)	幅員 (m)	水深 (m)	幅員 (m)	
第一航路	16~16.5	600~740	15~16	600~700	既定計画の変更
	15~16	600~700			

第一航路沖の水深確保を前提とした。



(2) 泊地及び航路・泊地計画の概要

係留施設の水深の変更等に対応するため、泊地及び航路・泊地のうち、以下の施設について計画を変更する。

表 3-5 泊地計画

地区名	対象施設名	対象船舶 (DWT)	今回計画		既定計画		種別
			水深 (m)	面積 (ha)	水深 (m)	面積 (ha)	
南部地区	大井コンテナ (o1~o7)	100,000	15~16	12.1	15	12.1	既設の変更
中部地区	青海コンテナ (A2)	50,000	15	1.8	15	1.8	既設
	青海コンテナ (A0~A1)	40,000	13	2.6	13	2.6	
	青海コンテナ (A3~A4)	100,000	15~16	3.6	15	3.6	既設の変更
中央防波堤地区	中央防波堤外側 コンテナ (Y1)	20,000	11	1.2	11	1.2	既設
	中央防波堤外側 コンテナ (Y2)	100,000	15~16	2.0	15~16	2.0	
	中央防波堤外側 コンテナ (Y3)	120,000	16~16.5	5.7	15~16	5.6	既定計画の変更
	新海面処分場 コンテナ (Z1)						既定計画の変更

表 3-6 航路・泊地計画

地区名	対象施設名	対象船舶 (DWT)	今回計画		既定計画		種別
			水深 (m)	面積 (ha)	水深 (m)	面積 (ha)	
南部地区	大井コンテナ	100,000	15~16	365.3	15	360.3	既設の変更
中部地区	青海コンテナ	100,000					既設の変更
		青海コンテナ	40,000	13	1.8	13	1.8
中央防波堤地区	中央防波堤外側 コンテナ	20,000	11	7.0	11	7.0	既設
	中央防波堤外側 コンテナ	100,000	15~16	16.6	15~16	16.6	既設
	中央防波堤外側 コンテナ	120,000	16~16.5	109.3	15~16	109.4	既定計画の変更
	新海面処分場 コンテナ						既定計画の変更

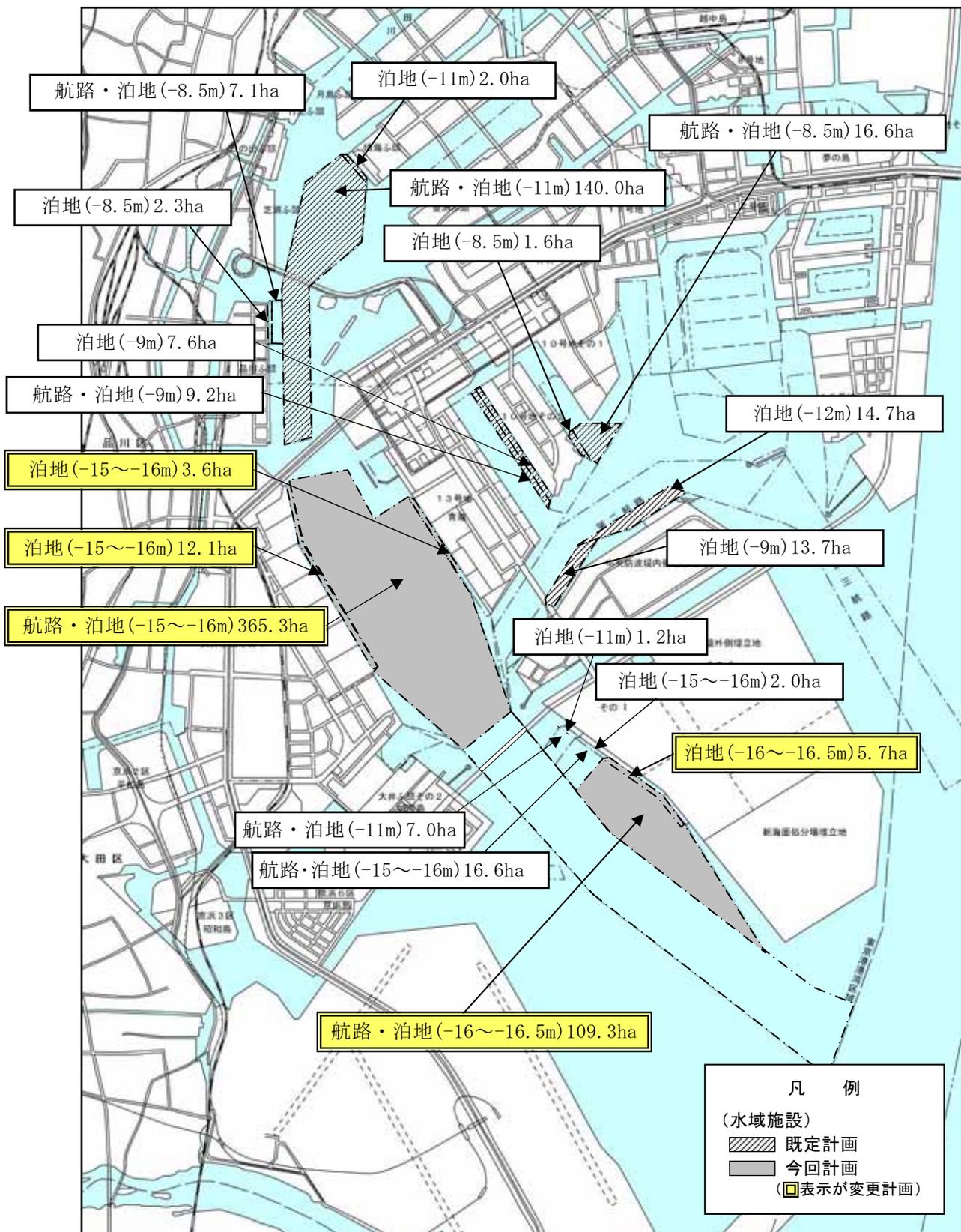


図3-11 泊地及び航路・泊地計画

(3) 操船例図

操船例図は次のとおりである。

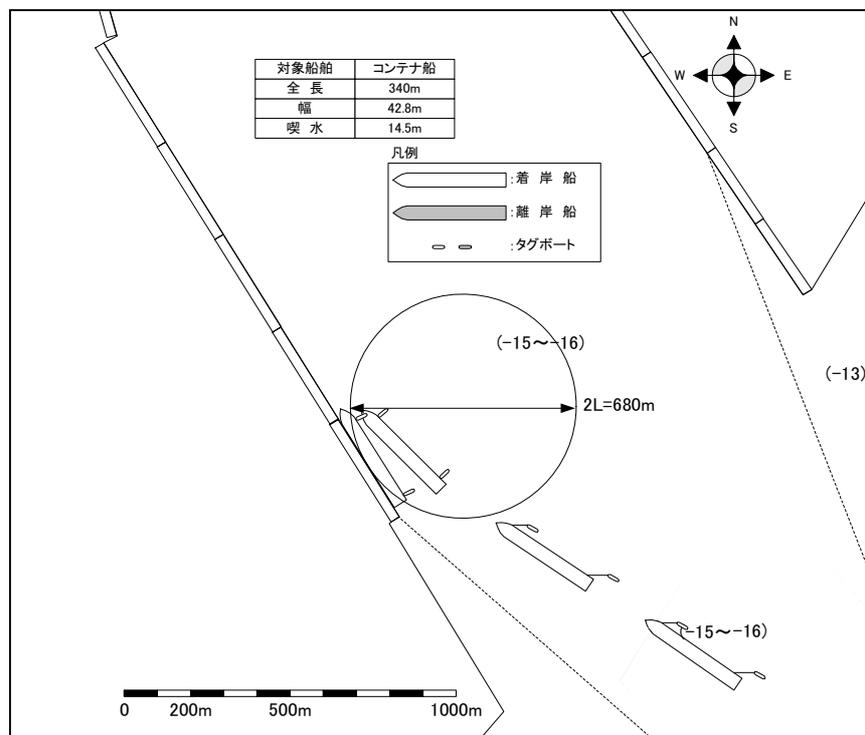


図 3 - 1 2 大井コンテナ埠頭南側入港操船例図

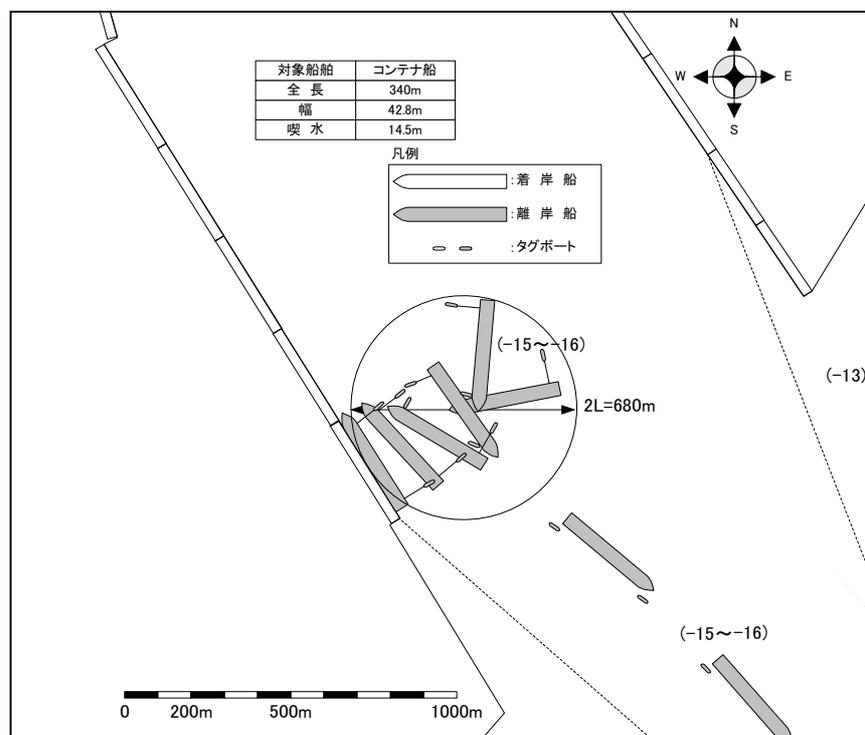


図 3 - 1 3 大井コンテナ埠頭南側出港操船例図

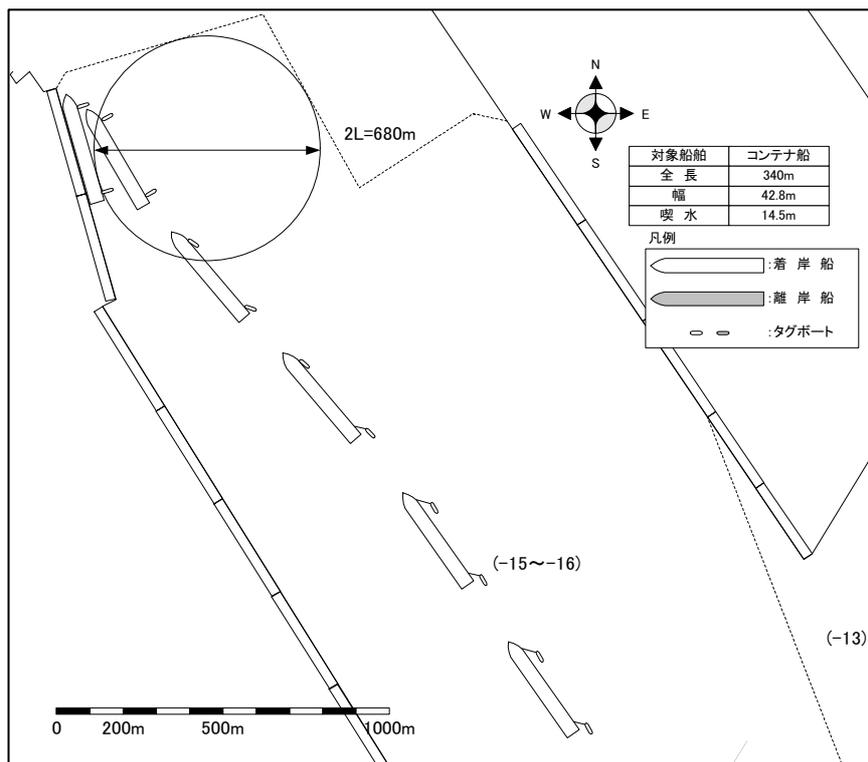


図 3 - 1 4 大井コンテナ埠頭北側入港操船例図

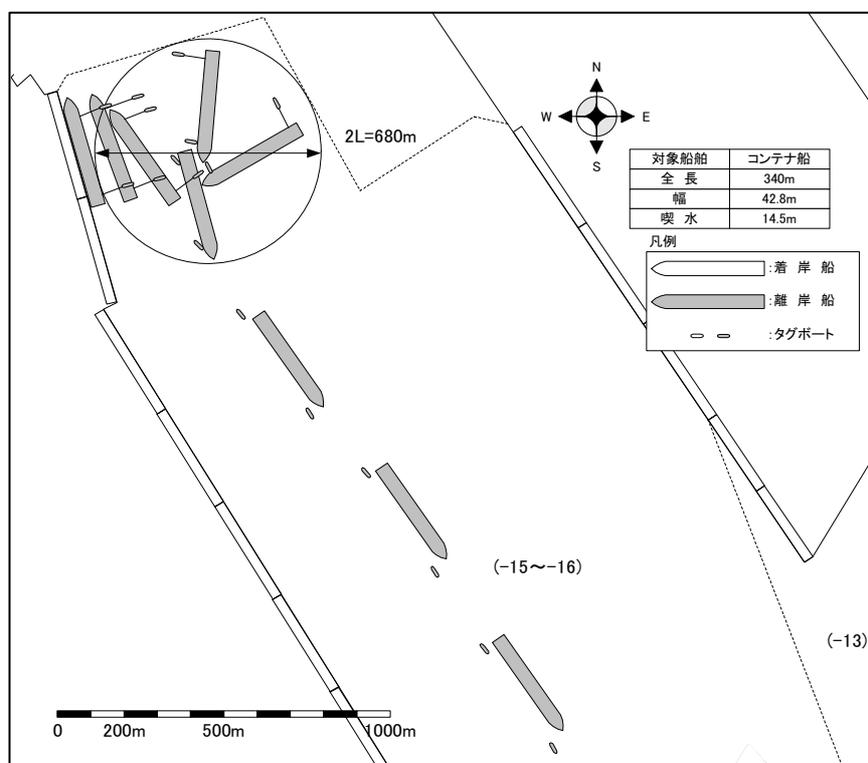


図 3 - 1 5 大井コンテナ埠頭北側出港操船例図

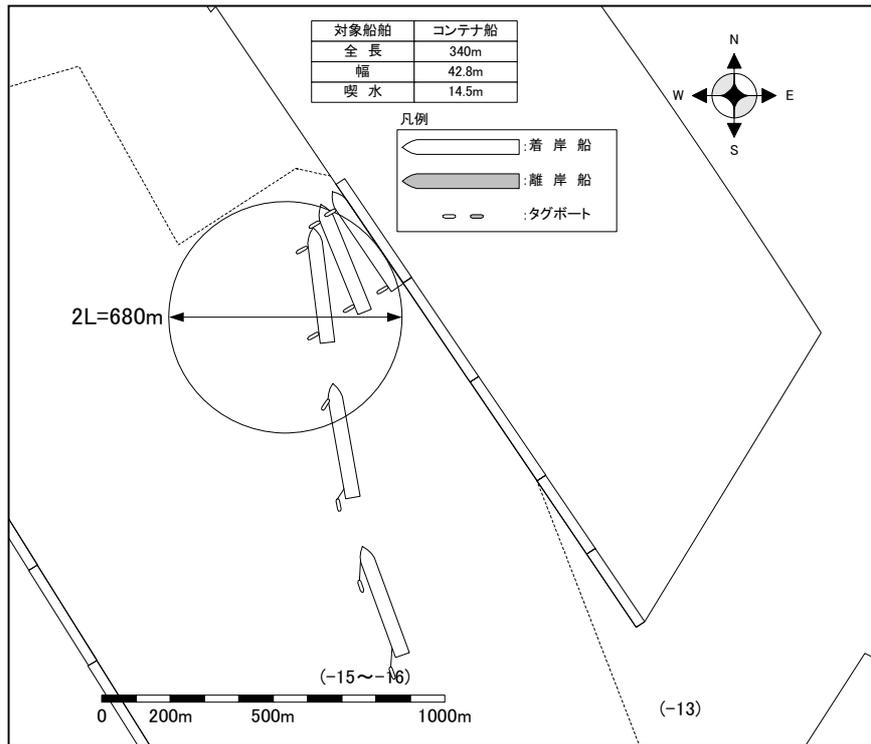


図 3 - 1 6 青海コンテナ埠頭南側入港操船例図

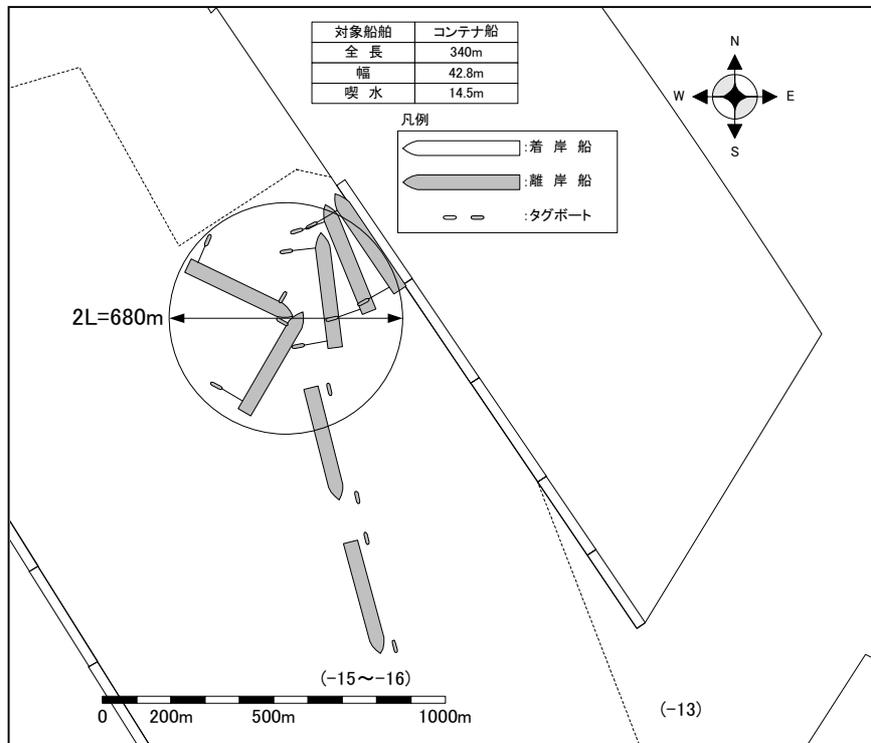


図 3 - 1 7 青海コンテナ埠頭南側出港操船例図

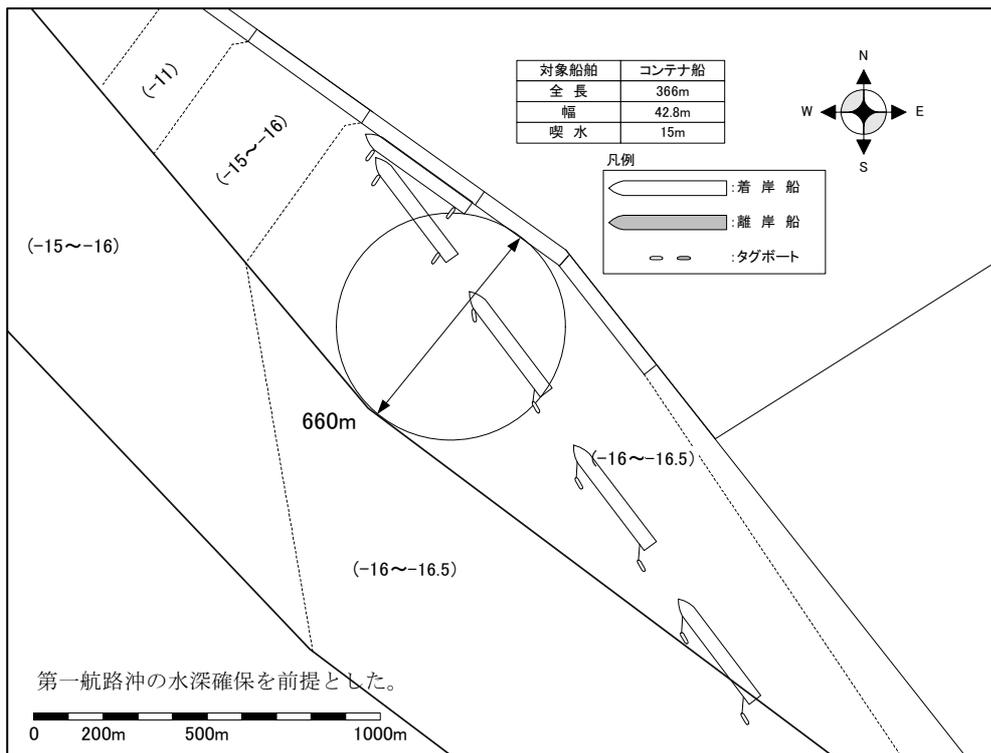


図 3 - 1 8 中央防波堤外側コンテナ埠頭入港操船例図

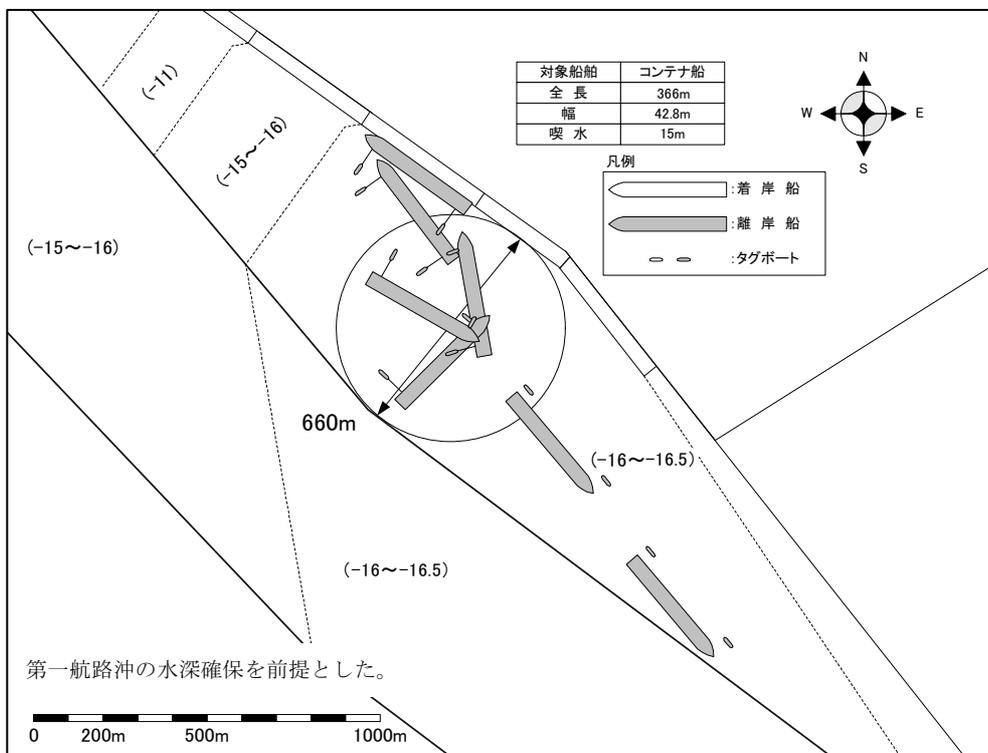


図 3 - 1 9 中央防波堤外側コンテナ埠頭出港操船例図

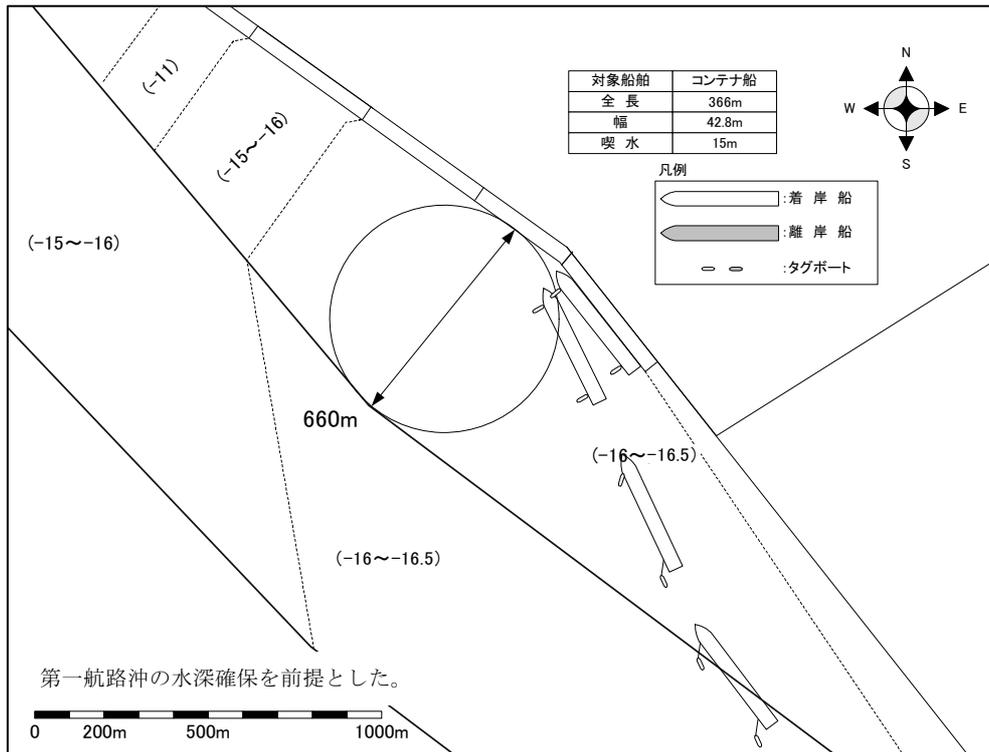


図 3 - 2 0 新海面処分場コンテナ埠頭入港操船例図

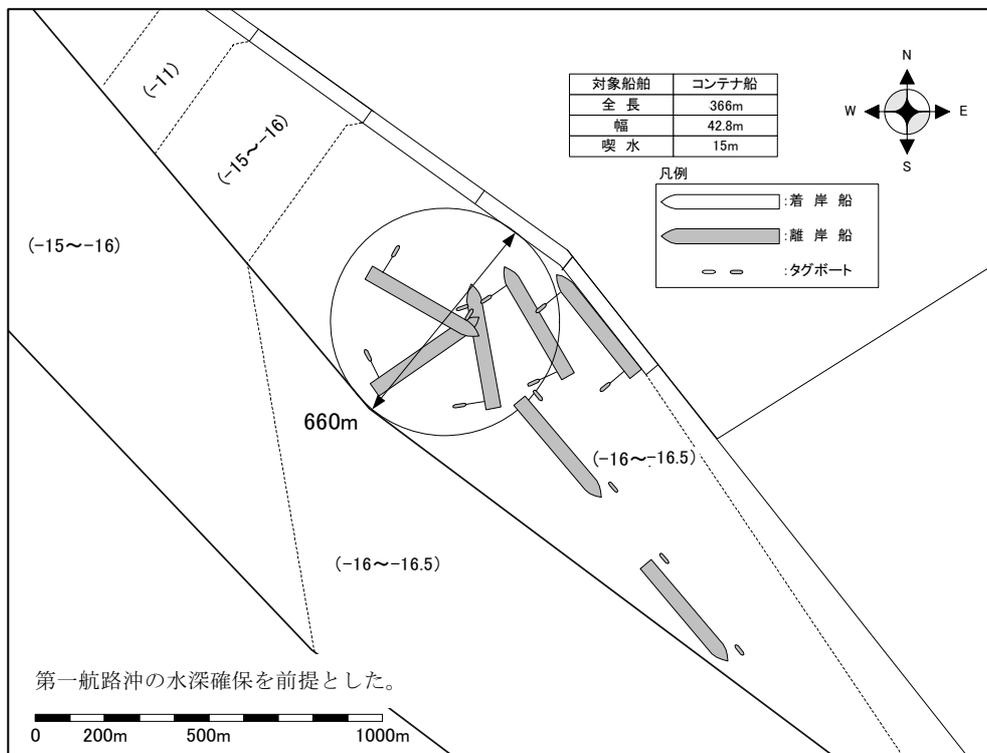


図 3 - 2 1 新海面処分場コンテナ埠頭出港操船例図

3-3 臨港交通施設計画

(1) 臨港交通施設計画の概要

港湾における交通の円滑化を図るため、臨港交通施設として、以下の施設を追加する。

表 3-7 臨港交通施設計画

施設名	起点	終点	車線数	交通量 (百台/日)	大型車 混入率 (%)	規模の 考え方	配置の 考え方
南北線	有明ふ頭 連絡線	中防内 5号線	4	391	75.0	推計交通量、既存施設より設定	ふ頭と背後地の幹線道路を連絡するよう配置



図 3-22 臨港道路計画位置図

4 大規模地震対策施設計画に関する資料

(1) 国際海上コンテナ輸送に対応した大規模地震対策施設計画

今回の計画変更に伴い、既定計画において「国際海上コンテナ輸送に対応した大規模地震対策施設計画」として定めていた施設について、以下のとおり計画を変更する。

表 4-1 国際海上コンテナ輸送に対応した大規模地震対策施設計画

地区名	埠頭名	水深	バース数	延長	機能	種別
南部地区	大井コンテナ	15～16m	3	990m	国際海上コンテナ輸送用岸壁	既設の変更
中央防波堤地区	中央防波堤外側コンテナ	15～16m	1	400m		既定計画
		16～16.5m	1	400m		既定計画の変更

(2) 緊急輸送道路

被災地等への上陸アクセスを確保するため、耐震強化岸壁と既存の緊急輸送道路（東京都地域防災計画震災編（平成 19 年修正））を結ぶ以下の道路について、今後、緊急輸送道路として位置付けていく。

国際海上コンテナ輸送に対応する緊急輸送道路（予定）

臨港道路 南北線（4車線） [新規計画]
 起点 臨港道路有明ふ頭連絡線
 終点 臨港道路中防内5号線

(3) 地域防災計画における位置付け

災害時に効率よく運営していくため、今後地域防災計画に位置付けていく。

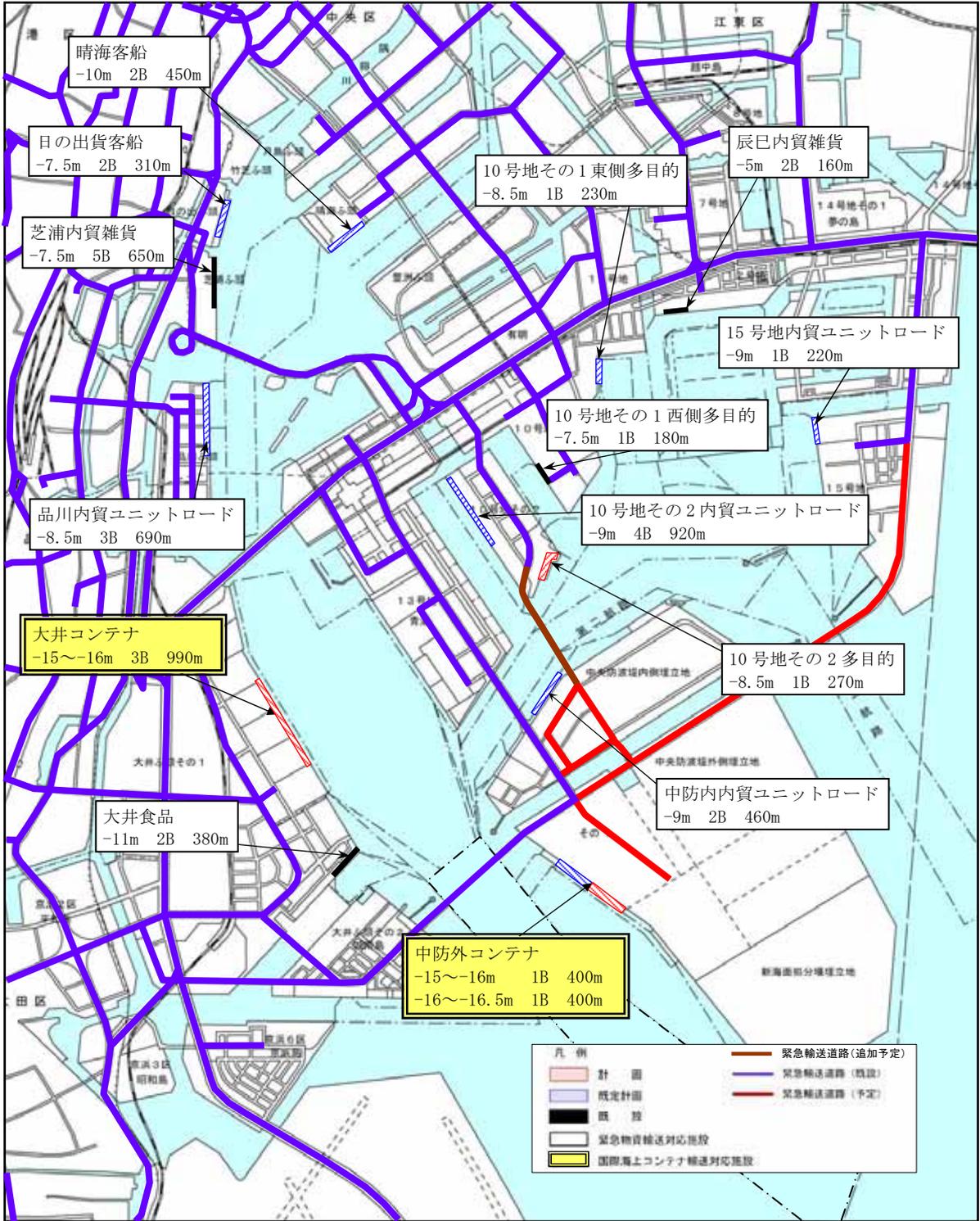


図 4 - 1 大規模地震対策施設計画

5 国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設に関する資料

今回の計画変更に伴い、既定計画において「国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設」として定めていたものについて、以下のとおり計画を変更する。

[国際海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設]

南部地区

(大井ふ頭その1)

水深 15~16m 岸壁 7 バース 延長 2,354m [既設の変更計画] o1~o7

中部地区

(13号地)

水深 15~16m 岸壁 2 バース 延長 700m [既設の変更計画] A3~A4

中央防波堤地区

(中央防波堤外側・新海面処分場)

水深 15~16m 岸壁 1 バース 延長 400m [既設] Y2

水深 16~16.5m 岸壁 1 バース 延長 400m [既定計画の変更計画] Y3

水深 16~16.5m 岸壁 1 バース 延長 420m [既定計画の変更計画] Z1

(10号地その2・中央防波堤内側)

臨港道路南北線 (4車線)

起点 臨港道路有明ふ頭連絡線

終点 臨港道路中防内5号線 [新規計画]

[国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設]

内港地区

(品川ふ頭)

水深 8.5m 岸壁 5 バース 延長 1,150m [既定計画] S1~S5

中部地区

(10号地その2)

水深 9.0m 岸壁 6 バース 延長 1,380m [既定計画] V1~V6

東部地区

(15号地)

水深 9.0m 岸壁 2 バース 延長 440m [既定計画] L1~L2

中央防波堤地区

(中央防波堤内側)

水深 9.0m 岸壁 2 バース 延長 460m [既定計画] X4~X5

7 土地造成及び土地利用計画に関する資料

(1) 土地利用計画

公共埠頭計画の変更に併せ、南部地区及び中央防波堤地区の土地利用計画を次のとおり変更する。

表 7-1 土地利用計画

(単位：ha)

地区名	埠頭用地	港湾関連用地	工業用地	都市機能用地	交通機能用地	緑地	廃棄物処理施設用地	海面処分用地	合計
南部地区	(141.6) 141.6	(239.9) 239.9	(126.1) 126.1	153.3	(38.4) 287.3	(115.5) 155.3	(37.3) 37.3		(698.8) 1,140.8
中央防波堤地区	(146.7) 146.7	(179.9) 179.9	(16.9) 16.9	48.8	(75.6) 102.0	(149.2) 210.1	(46.0) 46.0	(245.4) 245.4	(859.7) 995.8

注1：() は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画の内数である。

注2：端数整理のため、内訳の和は必ずしも合計とならない。

注3：今回の変更に係る地区のみ記述した。

既定計画

(単位：ha)

地区名	埠頭用地	港湾関連用地	工業用地	都市機能用地	交通機能用地	緑地	廃棄物処理施設用地	海面処分用地	合計
南部地区	(140.9) 140.9	(239.9) 239.9	(126.1) 126.1	153.3	(38.4) 287.3	(115.5) 155.3	(37.3) 37.3		(698.1) 1,140.1
中央防波堤地区	(146.6) 146.6	(179.9) 179.9	(16.9) 16.9	48.8	(75.6) 102.0	(149.2) 210.1	(46.0) 46.0	(245.4) 245.4	(859.6) 995.7

注1：() は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画の内数である。

注2：端数整理のため、内訳の和は必ずしも合計とならない。

注3：今回の変更に係る地区のみ記述した。

(2) 土地造成計画

公共埠頭計画の変更に併せ、南部地区及び中央防波堤地区の土地造成計画を次のとおり変更する。

表 7-2 土地造成計画

(単位：ha)

地区名	埠頭用地	港湾関連用地	交流厚生用地	工業用地	都市機能用地	交通機能用地	緑地	海面処分用地	合計
南部地区	(0.7) 0.7	(21.5) 21.5				(0.7) 0.7			(22.9) 22.9
中央防波堤地区	(10.8) 10.8	(1.6) 1.6						(245.4) 245.4	(257.8) 257.8

注1：() は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地造成計画の内数である。

注2：端数整理のため、内訳の和は必ずしも合計とならない。

注3：今回の変更に係る地区のみ記述した。

既定計画

(単位：ha)

地区名	埠頭用地	港湾関連用地	交流厚生用地	工業用地	都市機能用地	交通機能用地	緑地	海面処分用地	合計
南部地区		(21.5) 21.5				(0.7) 0.7			(22.2) 22.2
中央防波堤地区	(10.7) 10.7	(1.6) 1.6						(245.4) 245.4	(257.7) 257.7

注1：() は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地造成計画の内数である。

注2：端数整理のため、内訳の和は必ずしも合計とならない。

注3：今回の変更に係る地区のみ記述した。

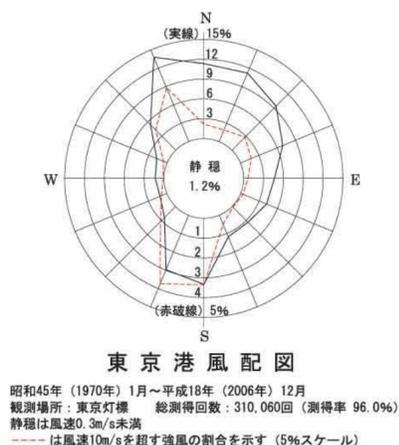
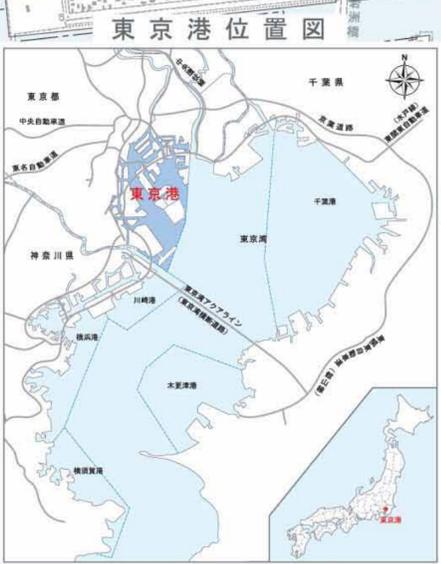
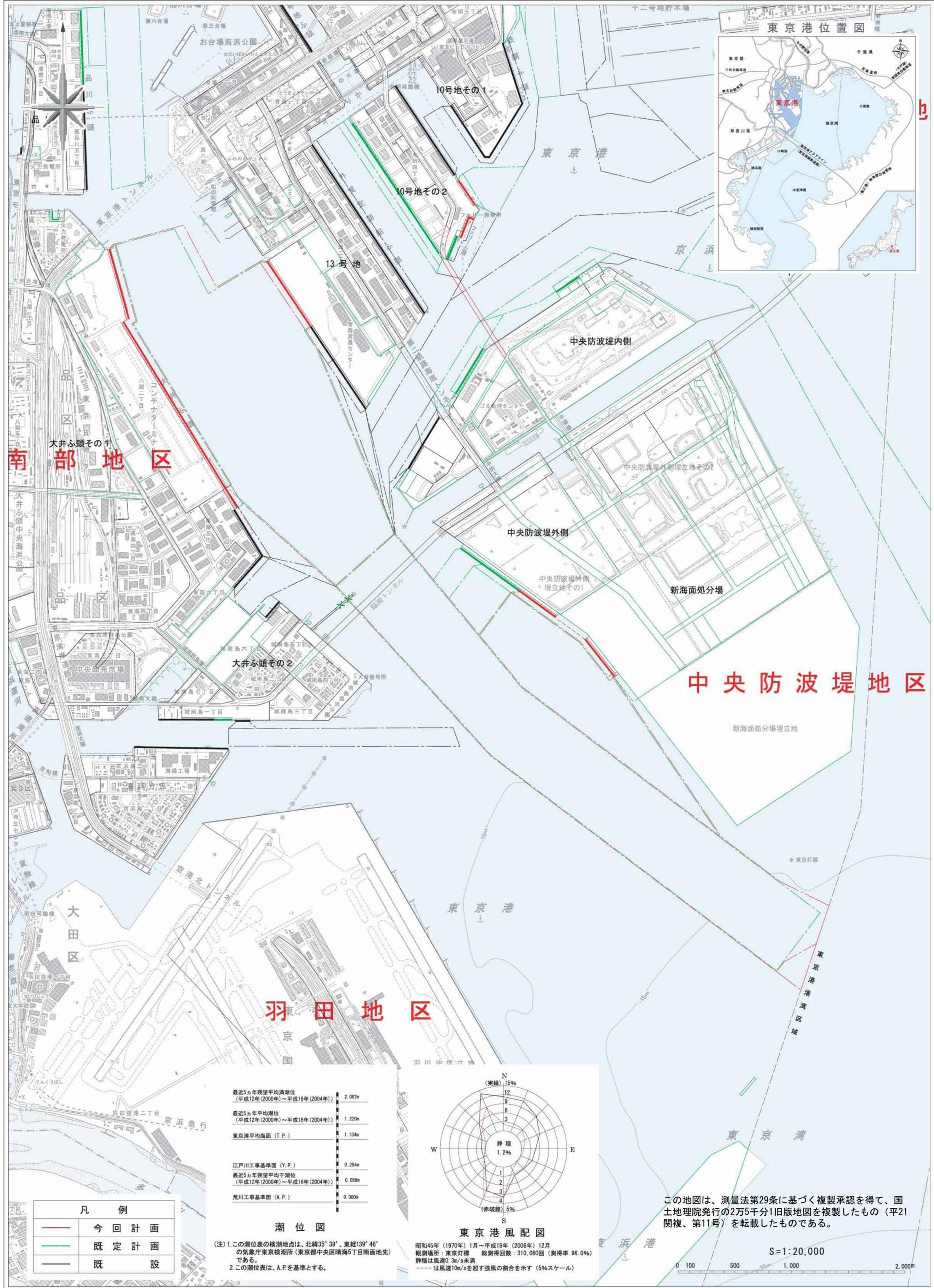
8 その他資料

8-1 東京都港湾審議会名簿

平成21年4月1日現在

分野	役職等	氏名
学識経験を有する者	公立大学法人首都大学東京 理事長	高橋 宏
	社団法人日本港湾協会 副会長	川嶋 康宏
	社団法人日本荷主協会 常務理事	河村 輝夫
	富士常葉大学環境防災学部 教授	重川 希志依
	東京大学大学院 教授	下村 彰男
	明治大学農学部 教授	倉本 宣
	青山学院大学経営学部 教授	三村 優美子
	江戸川大学社会学部 教授	恵 小百合
	政策研究大学院大学 教授	森地 茂
	元・財団法人東京都公園協会 西部支社長	清水 政雄
港湾・海上公園利用者	社団法人東京港運協会 会長	鶴岡 元秀
	東京倉庫協会 会長	鈴木 幹夫
	東京港定航船主会 会長	山脇 俊介
	東京湾海難防止協会 特別参与	石河 溥史
	東京港湾労働組合協議会 副議長	都澤 秀征
	全日本海員組合 関東地方支部長	岡本 永興
	社団法人東京都レクリエーション協会 副会長	丸山 正
	都民公募	小川 幸彦
	都民公募	安 章浩
港湾区に隣接する特別区の区長	中央区長	矢田 美英
	港区長	武井 雅昭
	江東区長	山崎 孝明
	品川区長	濱野 健
	大田区長	松原 忠義
	江戸川区長	多田 正見
東京都議会議員	東京都議会議員	鈴木 あきまさ
	東京都議会議員	神林 茂
	東京都議会議員	田中 たけし
	東京都議会議員	名取 憲彦
	東京都議会議員	馬場 裕子
	東京都議会議員	木内 良明
	東京都議会議員	小竹 ひろ子
関係行政機関の職員	東京税関長	大前 忠
	関東地方整備局長	菊川 滋
	関東運輸局長	福本 秀爾
	東京海上保安部長	武留井 武男
	警視庁交通部長	瀧澤 敬治

東京港港湾計画新旧法線対照図



最近5ヵ年期望平均満潮位
(平成12年(2000年)~平成16年(2004年)) 2.082m

最近5ヵ年平均潮位
(平成12年(2000年)~平成16年(2004年)) 1.220m

東京湾平均海面 (T.P.) 1.134m

江戸川工事基準面 (Y.P.) 0.294m

最近5ヵ年期望平均干潮位
(平成12年(2000年)~平成16年(2004年)) 0.058m

荒川工事基準面 (A.P.) 0.000m

潮位図

(注) 1.この潮位表の検潮地点は、北緯35°39'、東経139°46'の気象庁東京検潮所(東京都中央区晴海5丁目南面地先)である。
2.この潮位表は、A.P.を基準とする。

凡例

— (Red line)	今回計画
— (Green line)	既定計画
— (Black line)	既設

この地図は、測量法第29条に基づく複製承認を得て、国土地理院発行の2万5千分1旧版地図を複製したもの(平21関複、第11号)を転載したものである。

